取扱説明書

Contex IQ Quattro X

大判スキャナ



機種:IQ Quattro X

UG14405-1D JP IQQ X 2026 Nov

目次

目次 **2**

この取扱説明書について **3**

仕様 **6**

スキャナの概要 **8**

スキャナ正面図: 8

スキャナ背面図: 9

インストール **10**

システム要件 10

インストール手順 10

主電源スイッチ **29**

スリープモードとウェイクアップモード 30

待機時間後の自動スリープ 31

原稿をスキャナにセットする **32**

自動給紙 32

手動給紙 33

スキャン後の原稿の取り出し 33

低速給紙 34

入力サイズの設定 34

スキャン **35**

スキャン用のソフトウェアアプリケーション 35

バッチスキャン 35

WIDEsystemによるスキャナのモニタリング 36

メンテナンス **38**

スキャナのメンテナンスについて 38

スキャンエリアの清掃 38

スキャナの内部の清掃 39

補正 46

ガラスプレートの交換 50

ガラスプレートの交換 – 主要部品の概要 52

新しいファームウェアのダウンロード 59

ファームウェアとは? 59

新しいファームウェアが必要となる場合とは? 59

スキャナのファームウェアのバージョンを確認する 59

新しいファームウェアをインストールする方法 59
トラブルシューティング 60
システム上でのエラー報告 60
一般的なエラーの修正 60
技術サポート 60
スキャナのインストールに関連する問題 61
スキャナの操作に関連する問題 62
スキャン結果に関連する問題 65
付録 66
安全に関する重要な注意事項 66
規則 67
オプションスタンドの寸法図 68

この取扱説明書について

この取扱説明書では、Contex IQ Quattro X大判スキャナの操作と保守について説明します。
コンピュータとWindowsの基本操作については、それぞれの取扱説明書を参照してください。

以下の資料を必ずお読みください。

- **「インストール」のセクション**
  スキャナドライバのインストール方法を説明しています。
- **WIDEsystem TOOLS USBサムドライブのwsフォルダにあるreadme.htm**
  インストールやOSの互換性に関する最新情報が記載されています。
- **WIDEsystem TOOLS のヘルプ**
  WIDEsystemを開き、F1キーを押すと、設定やメンテナンスについてのヘル

プを表示できます。

この取扱説明書について

この取扱説明書では、次のモデルを対象としています。

スキャナ名	モデル番号	説明
IQ Quattro X 2490	MX52D	24インチカラースキャナ
IQ Quattro X 3690	MV52D	36インチカラースキャナ
IQ Quattro X 4490	MU52D	44インチカラースキャナ



上記スキャナモデルは国際エネルギースタープログラム®に準拠しています。


重要：必ずスキャナに付属のWIDEsystem USBサムドライブまたはその更新版を使用してください。古いバージョンのWIDEsystemソフトウェアは、スキャナのモデルを検出しない場合があります。


注記：Nextimage 7はWindows 11 Pro／Enterprise（64bit）に対応しています。Windows Serverは非対応です。最新のWIDEsystemとスキャナ用ファームウェアを使用してください。Nextimage 7には専用ライセンスが必要です。旧バージョンのライセンスはそのまま使用できません。Nextimage 6からのアップグレードについては、販売店またはContexサポート窓口にお問い合わせください。

仕様

IQ Quattro Xは、ギガビットイーサネットとUSB 3.0に対応する大判CISスキャナです。24インチ（約A1）、36インチ（約A0）、44インチ（約B0）の3サイズがあります。

	IQ Quattro X 2490	IQ Quattro X 3690	IQ Quattro X 4490
インターフェース	ギガビットイーサネット xDTR2.5 最大100 Mbyte/秒 / USB3.0 xDTR3.0 最大 250 Mbyte/秒		
カラー、モノクロスキャンスピード（200dpi）	452mm / 秒		
最大スキャニング幅	24”（610mm） A1+ ANSI D	36”（914mm） A0+ ANSI E	44”（1118mm） B0+ ANSI E+
最大メディア幅	26.6”（676mm）	38”（965mm）	47”（1194mm）
メディア挿入位置	中央		
メディア搬送ガイド	用紙トレイへの着脱（マグネット）が可能な給紙ガイド／スキャナ後方に取り付けるペーパーリターンガイド（取り外し可能）		
光学解像度	1200x1200 dpi		
最大解像度（補間解像度）	9600 dpi		
最大メディア厚	2mm （柔軟な原稿）		
精度	0.1% +/- 1ピクセル		
イメージセンサー	イメージセンサーの両側にLED光源を配置し、2方向から照射するCISモジュール		
原稿サイズ検知	自動サイズ検知方式		
電源消費電力（レディ／スリープ／スキャン時）	レディ時 最大18W / スリープ時 1W未満 / スキャン時 最大37W		

スキャニングソフトウェア	Nextimage 7		
質量／外形寸法（幅×奥行き×高さ）	15.3 kg 823×480×161 mm	21.9 kg 1160×480×161 mm	24.5 kg 1350×480×161 mm
スタンドオプション	ロースタンド（3段階調整）、ハイスタンド（9段階調整）付録参照		

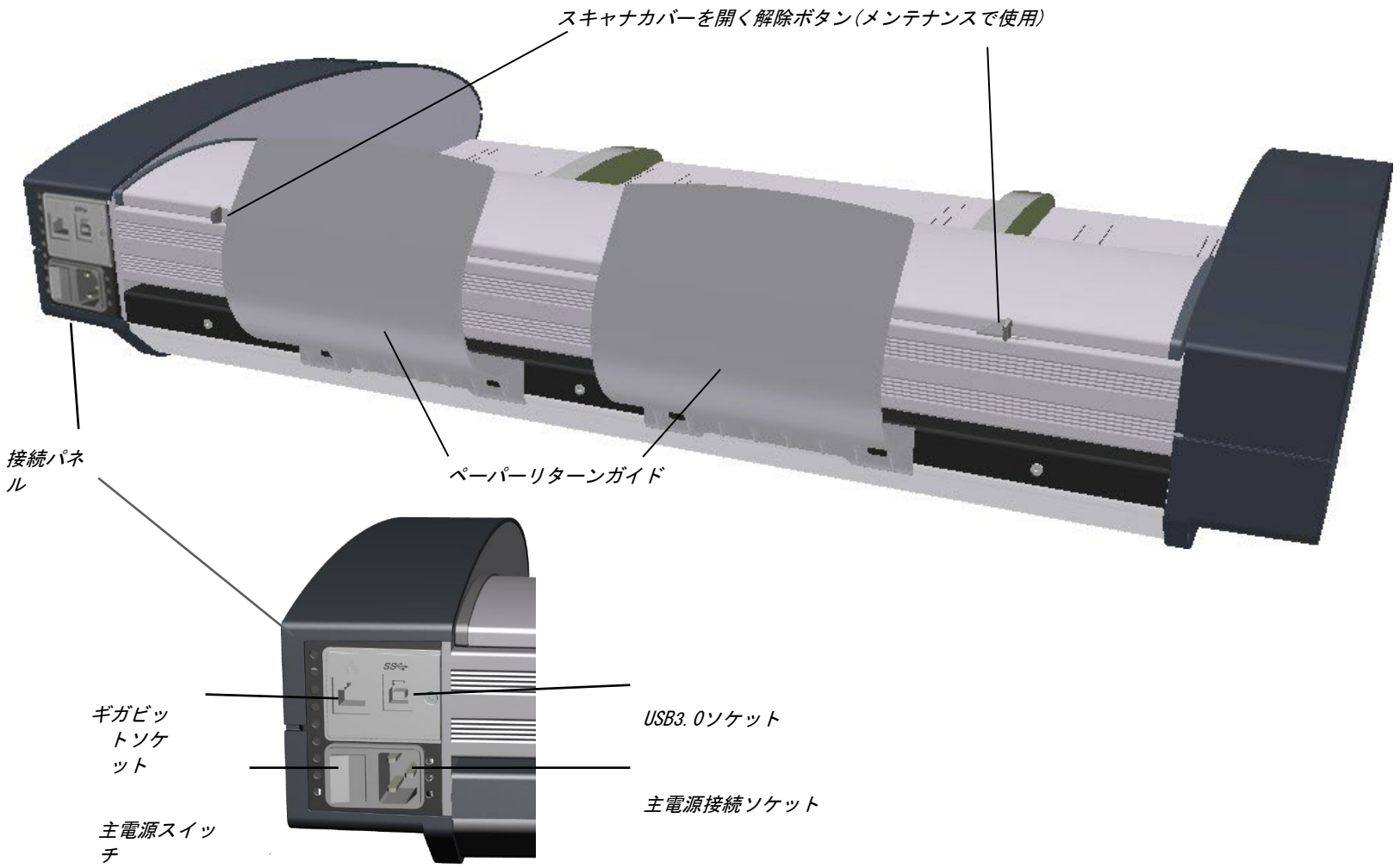
スキャナの概要

スキャナの部品、ボタン、構成

スキャナ正面図:



スキャナ背面図:


スキャナカバーを開く解除ボタン(メンテナンスで使用)
接続パネル
ペーパーリターンガイド
ギガビットソケット
主電源スイッチ
USB3.0ソケット
主電源接続ソケット

インストール

以下の手順に従うことで、スキャナおよびスキャナドライバをすばやく簡単にインストールすることができます。

システム要件

- 推奨PC：2.4 GHzの64bit CPU（8コア／16論理プロセッサ）、32 GB RAM、SSD SATAドライブ、USB 3.0またはギガビットイーサネット。
- Nextimage 7の対応OS：Windows 11 Pro／Enterprise（64bit）。Windows Serverは非対応です。
- PC上の有効化されたUSB3.0ポート。
- スキャナに付属しているWIDEsystem USBサムドライブ。
- スキャンソフトウェアまたは互換性のあるサードパーティ製ソフトウェア。
- アース付きコンセント。
- USB3.0ポートまたは有効化されたギガビットポートを備えたPC。



注記：ギガビットインターフェースの互換性および速度は、スキャナモデルによって異なります。

インストール手順

1

スキャンステーションを設定する

スキャナは、特別に設計された独立型フロアスタンド、または頑丈な台に設置 する必要があります。スキャナの後ろには原稿を排紙できるスペースを確保してください。

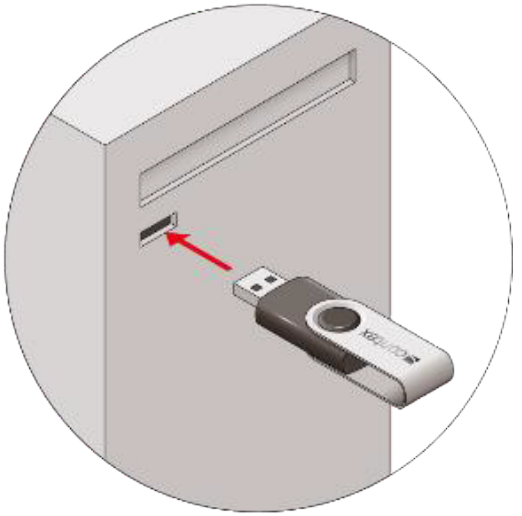
重要：この段階では、まだスキャナを電源にもPCにも接続しないでください。

この取扱説明書の終わりにある「安全上の注意事項」も参照してください。

2

WIDEsystemとスキャン/コピーソフトウェアをPCにインストールする

重要：WIDEsystemには、スキャナに必要なドライバが含まれています。WIDEsystemの インストールは、スキャナを接続したり、サードパーティのスキャンソフトウェアアプリケーションをインストールする前に行う必要があります。



- WIDEsystem USBサムドライブをPCに挿入します。セットアップファイルをダブルクリックしてインストーラーを実行してください。
- 画面に表示される指示に従ってWIDEsystemソフトウェアとスキャナドライバをインストー ルします。指示に従ってPCを再起動し、インストールを完了します。
- インストールが完了したら、USBサムドライブを取り外します。
- WIDEsystemが正しくインストールされると、WIDEsystemアイコンがPCのシステムトレイに 表示されます。
- WIDEsystemのインストール後、Contexまたはサードパーティサプライヤー製のスキャン/コピーソフトウェアをインストールすることができます。
- ソフトウェアをインストールした後もPCの電源はオンのままにしてください。次の手順でスキャナの準備と設定を行う際に必要です。

重要：インストールプロセス中にネットワークへのアクセスを許可するかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、必ず**[はい]**を選択してください。

警告：**この段階では、まだスキャナを電源にもPCにも接続しないでください。次に行う清掃作業において、怪我やデバイスの破損を防ぐためです。**

3 給紙台を清掃する

給紙台とは、原稿挿入口の前の平らな面のことです。原稿とともに埃がスキャナの内部に入り込まないように、給紙台をていねいに拭い てください。



4 カバーの解除ボタンをスライドしてスキャナカバーを開く

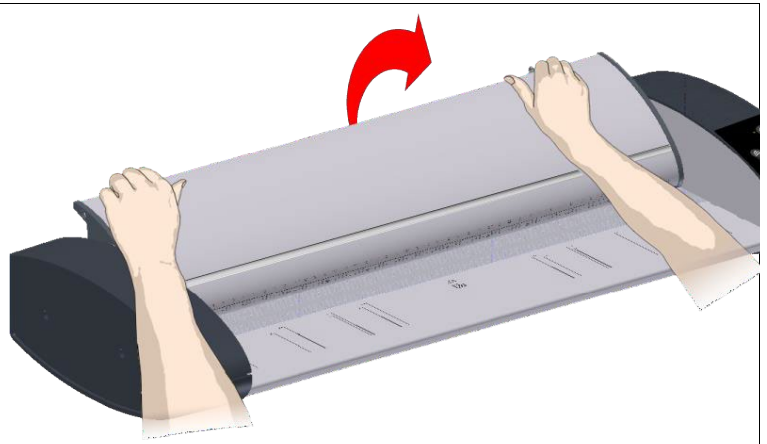
スキャナの梱包および輸送中に内部のスキャンエリアに溜まったほこりを拭き取る必要があります。スキャンエリアはスキャナカバーの下にあるため、カバーを開ける必要があります。スキャナカバーの解除ボタンはカバーの後部にあります。

- スキャナの前に立ちます。
- カバーのロックが外れるまで、スキャナカバーを上から押しながら、スキャナの中央に向かって解除ボタンを指でスライドさせます。
- 別の指でカバーの端を押さえてください。



5 スキャナカバーを開く

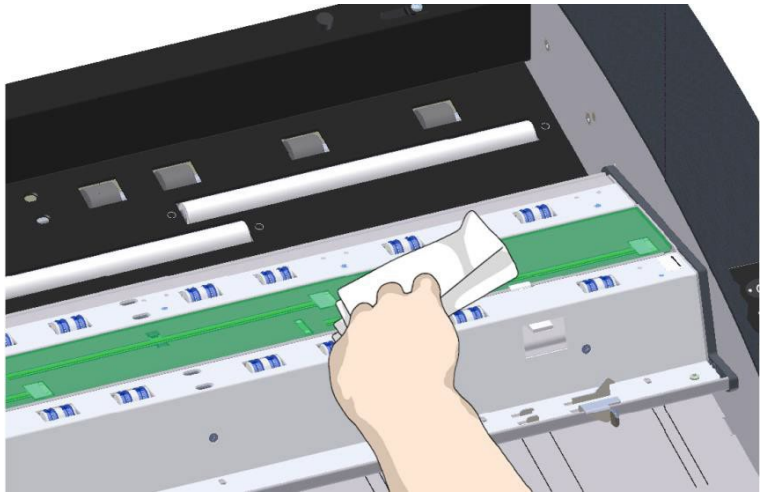
カバーの解除ボタンをおさえたまま、カバーの端を持って自分の方へ引き上げます。スキャナカバーを完全に開きます。



6 内部のスキャンエリアを清掃する

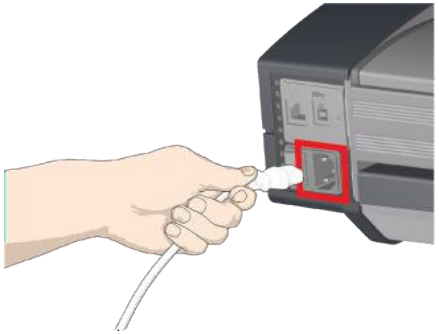
スキャンエリアのほこりを拭き取ります。
糸くずの出ない乾いた布を使用してください。

ガラスプレートに乾いた布では落ちない汚れが付着している場合は、このガイドの「スキャンエリアの清掃」に記載されている、スキャンエリアの入念な清掃方法を参照してください。



7 電源ケーブルをスキャナに接続する

スキャナの電源ケーブルをスキャナの主電源接続ソケットに接続します。主電源接続ソケットはスキャナの背面にあります。



8 電源プラグを壁コンセントに接続する

スキャナの電源ケーブルのもう一方の電源プラグをコンセントに差し込みます。

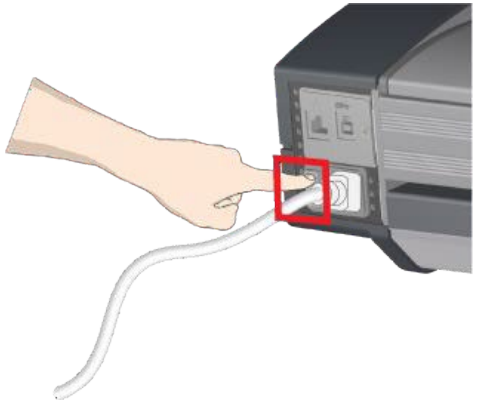
警告：スキャナには3線(ピン)アース端子付きタイプのプラグが付いています。プラグがコンセントに入らない場合は、電気技師を呼んでプラグまたはコンセントを交換し、電源を確実にアース接続してください。アース端子付きタイプのプラグの目的を無視した使い方をしないでください。





9 スキャナの電源を入れる

スキャナの背面にある主電源スイッチをオンにします。



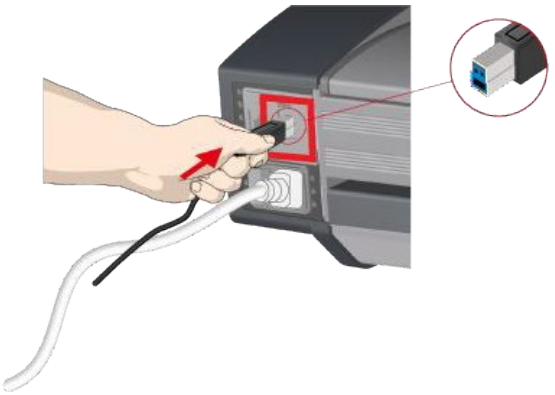
10 スキャナにUSB3.0インターフェースケーブルを接続する

スキャナのインストール、および認証はUSB3.0接続を使用した方が簡単にできます。これはギガビット対応のモデルでも同じです。

- インターフェース接続パネルは、スキャナの背面、向かって左側にあります。
- Bコネクタ(正方形のコネクタ)をスキャナのUSB3.0ポートに接続します。

注記:ギガビット対応のスキャナモデルの場合:インストールウィザードが、インストールプロセスの後半でギガビットインターフェースをインストールして認証するように指示します。この段階では、USB3.0ケーブルだけを接続してください。

規則について:このスキャナは、EMC規格EN55022およびFCC規則第15章に準拠することがテストにより確認されています。規格への準拠を維持するために、スキャナに付属 のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。

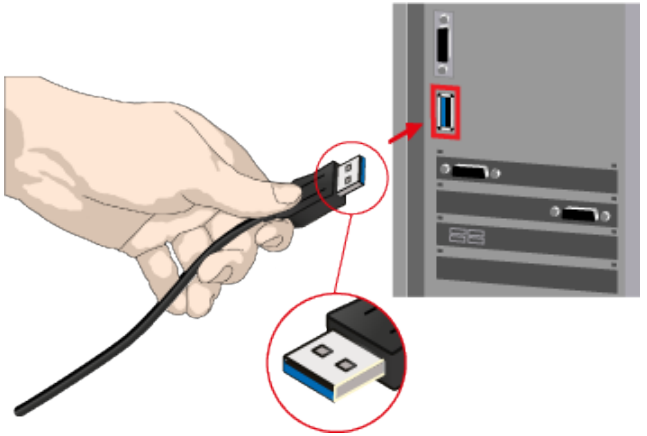


11

USB3.0インターフェースケーブルをPCに接続する

- PC側で、WIDEsystemが実行されていることを確認します。システムトレイにWIDEsystemのアイコンが表示されていることを確認して下さい。
- WIDEsystemが実行されていない場合は**[プログラム]**メニューからWIDEsystemを選択し、手動で起動してください。
- USB3.0ケーブルがスキャナに接続されていることを確認してください。
- Aコネクタ(平たいコネクタ)をPCのUSB3ポートに接続します。

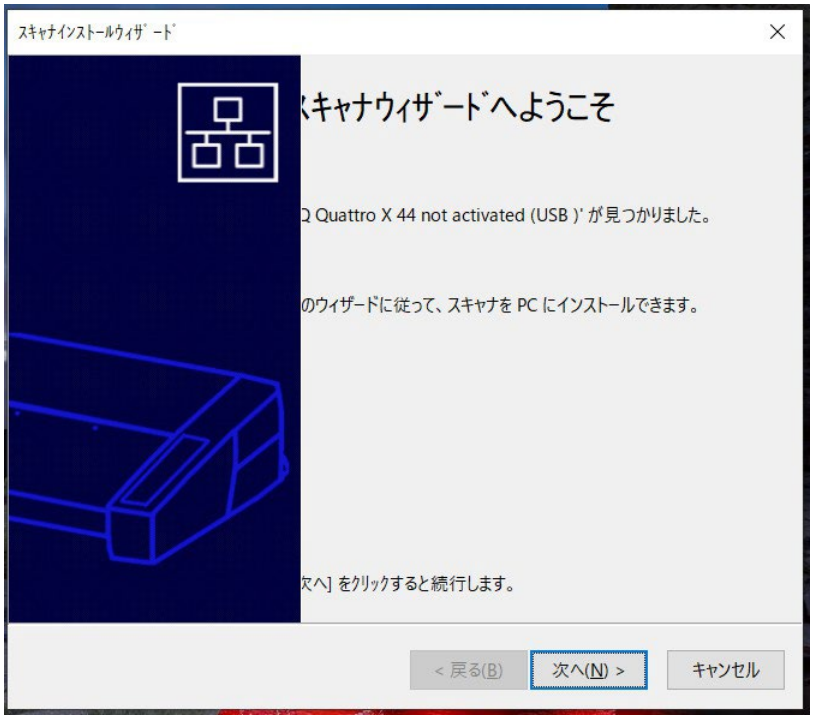
注記:PCの**背面**にあるUSB3.0ポートを使用することをお勧めします。PCのモデルによっては、前面のUSB3.0ポートを使用するとパフォーマンスに影響することがあります。



12

インストールウィザードが起動する

- ドライバがスキャナを検出し、スキャナインストールウィザードを 起動します。
- 初回のインストールでは、約20秒後にWIDEsystemスキャナインストールウィザードが起動します。
- インストールウィザードが起動しない場合は、次のうち1つまたは複数の操作を行ってください。
  - スキャナおよびPCでUSB3.0ケーブルを抜き差しします。
  - USB3.0ケーブルがスキャナとPCにしっかりと接続されていることを確認します。
  - PCの別のUSB3.0ポートを使用します。
  - USB3.0ケーブルがスキャナの背面にあるUSB3.0と記されたポートに接続されていることを確認します。(イーサネットポートなどに接続されていない)

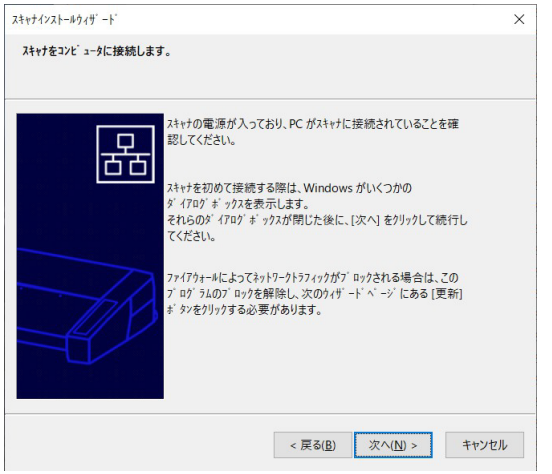


13

Windowsがスキャナをインストールする

- [次へ]をクリックし、画面に表示される指示に従ってPCにスキャナをインストールします。
- スキャナインストールプロセスの大部分は自動的に実行されます。
- 完了のメッセージが表示されるまで待ってください。
- 完了したら、[次へ]をクリックします。

重要：インストール中にソフトウェアにネットワークへのアクセスを許可するかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、必ず[はい]を選択してください。



14

国際エネルギースタープログラムの待機時間を設定する

工場出荷時は、スキャナを操作しない状態が15分続くと、自動的にスリープモードへ移行します。この待機時間は国際エネルギースタープログラムに準拠しています。

スリープモードへ移行するまでの待機時間は、最大60分まで延長できます。



15

スキャナのライセンス認証を行う

このスキャナを使用するためには、まずライセンス認証を行う必要があり ます。**スキャナ認証ウィザード**の指示に従ってください。

注記:スキャナの販売店が事前にライセンス認証を行っている場合もあります。スキャナのライセンス認証が完了している場合、ウィザードでは、この手順と次の手順16aおよび16bが省略されます。

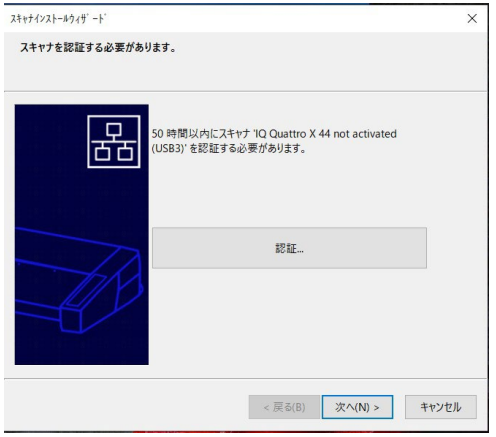
ライセンスキーと認証コードについて:

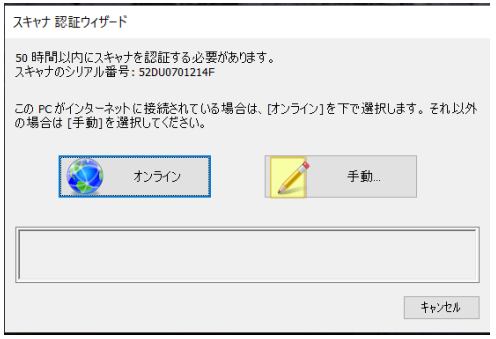
- スキャナに付属のライセンスキーを入力する必要があります。
- ライセンスキーをお持ちでない場合は、販売店に問い合わせてください。
- **オンライン認証**では、ライセンスキーのみが必要です。
- **手動でライセンス認証を行う場合**は、ライセンスキーと認証コードが必要になり ます。認証コードは，販売店またはメーカーのライセンスWebサイトから入手できます。認証コードをメーカーのライセンスWebサイトから入手する場合は、手動認証の手順（下記)に従ってください。

スキャナのライセンス認証

- **[認証]** ボタンをクリックして認証ウィザードを起動します。
- スキャナのライセンス認証には、**オンライン**と**手動**の2つの方法があります。
- PCがインターネットに接続されている場合は**[オンライン]**を選択し、そうでない場合は**[手動]**を選択します。
- **[オンライン]**を選択した場合は、手順16aに進みます(16bは飛ばします)。[手動]を選択した場合は、手順16bに進みます(16aは飛ばします)。

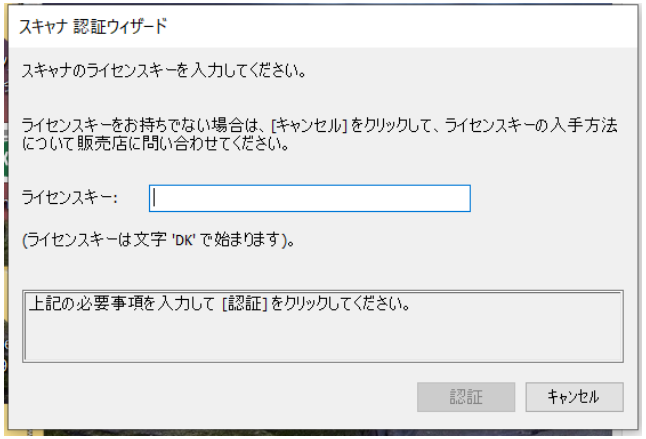
重要：インストール中にネットワークへのアクセス許可を確認するメッセージが表示された場合は、［はい］ を選択してください。





16a

オンライン認証



オンライン認証は非常に簡単です。必要なのはライセンスキーだけです。

ライセンス認証の方法として**[オンライン]**を選択すると、右図上に示すダイアログが表示されます。

- **[ライセンスキー]**フィールドにライセンスキーを入力します。
- ライセンスキーを入力すると、すぐにキーが認証され、有効なキーであれば、ダイアログの中央の右寄りに緑色のチェックマークが表示されます。
- 続行するには、**[認証]**ボタンをクリックします。
- ライセンス認証が成功したことを示す**[成功]**ダイアログが表示されます。

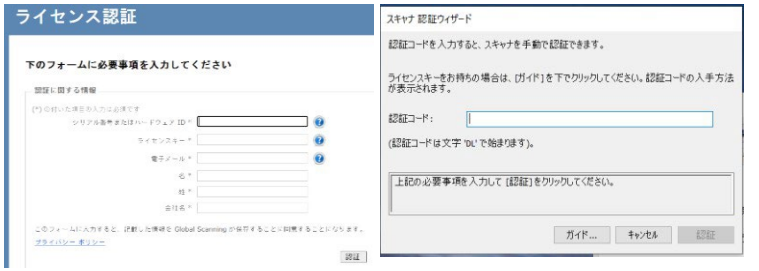
16b

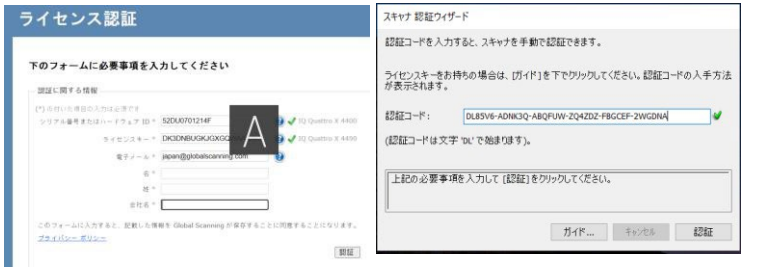
手動認証

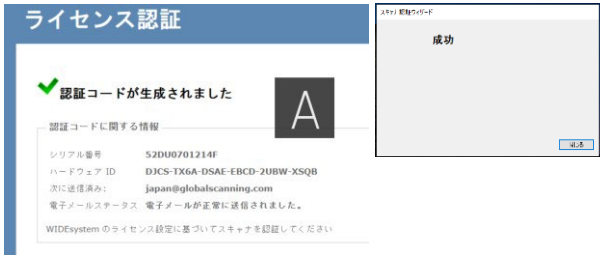
- 作業を続けるには**ライセンスキー**をご用意ください。ライセンスキーをお持ちでない場合は、販売店にお問い合わせください。
- 手動認証では**認証コード**を使用するため、**スキャナID**(**シリアル番号**または**ハードウェアID**)と**ライセンスキー**が必要です。**ハードウェアID**は、手動認証プロセスでスキャナから読み込まれ、PCウィザード(*1)に自動的に表示されます。
- **ライセンスキー**と**スキャナID**を使用して**認証コード**を生成するには、デバイスからインターネットにアクセスする必要があります。

  以下の手順を実行します(ウィザードで繰り返します)。

  - ウィザード(*1)に表示された**ハードウェアID**を書き留めるかコピーします。どちらもオンライン認証フォームに入力する必要があります。
  - www.licenseactivate.comに移動します。
  - **ライセンス認証Webフォーム**で、スキャナの**シリアル番号**(スキャナ背面のラベルを参照)または**ハードウェアID**(手順*1のウィザードに表示)を入力します。
  - 2番目のフィールドに**ライセンスキー**を入力します。[認証]ボタンをクリックして**認証コード**(*2)を生成します。
  - Webフォーム(*3)から**認証コード**を書き留めるかコピーします。
  - 手動スキャナ認証ウィザードダイアログ(*4)に**認証コード**を入力するか貼り付けます。**[認証]**を押し、**[次へ]**を押します。
  - ウィザードによってスキャナが認証されます。認証が完了すると，正しく認証されたことを示すメッセージが表示されます。





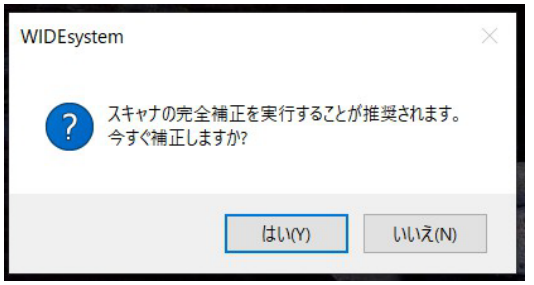


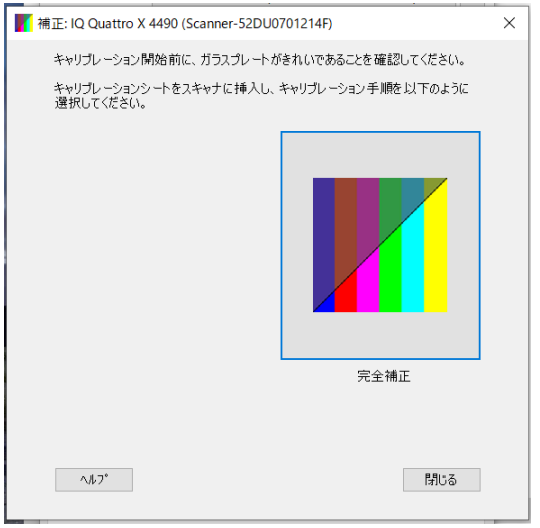
17

スキャナのキャリブレーション（補正）

スキャナのインストールにはスキャナのキャリブレーション（補正）が含まれています。キャリブレーションのウィザードが自動的に起動します。

- **[はい]**をクリックして、ウィザードを起動します。
- ウィザードの指示に従ってスキャナのキャリブレーションを行います。
- 前のインストール手順に従って内部のスキャンエリアやガラスプレートを清掃していない場合は、ここで清掃を行ってください。
- スキャナに付属のキャリブレーションシートを挿入するように指示されます。
- シートの矢印をスキャナの中心にある矢印に合わせてください。
- **[完全補正]**アイコンをクリックします。キャリブレーションは自動的に実行されま す。
- キャリブレーションが正常に完了したメッセージが表示されます。
- 正常に完了したら、キャリブレーションシートを取り出します。



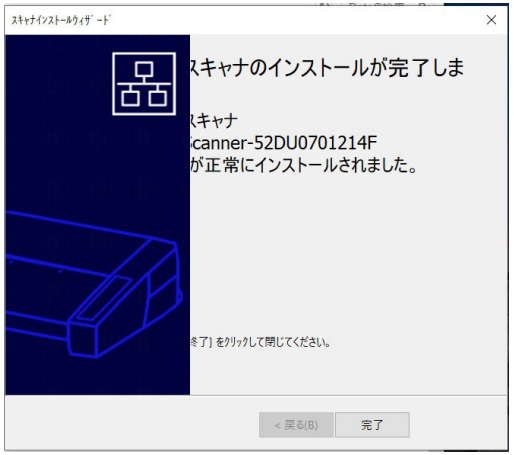


18

インストール完了

スキャナが正しくインストールされると右のメッセージが表示されます。

注記：USB 3.0接続での初期設定が完了しました。有線LANで使用する場合は、次の手順に進んでください。



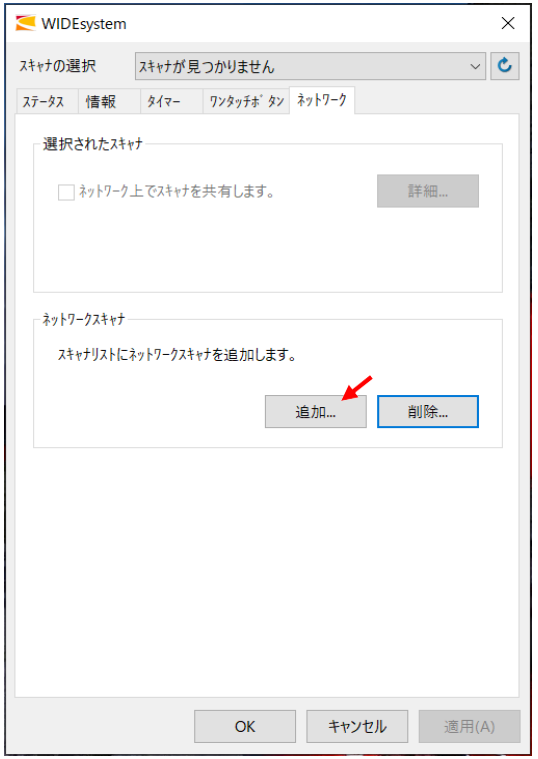
19 スキャナをネットワークに接続する（イーサネット）

始めにスキャナの電源を切ってください。

USB3.0のケーブルが接続されている場合はケーブルを取り外してください。
同梱するイーサネットケーブルの一方をスキャナのギガビットネットワークソケットに接続 します。ケーブルのもう一方の端をネットワークに接続します。スキャナの電源を入れます。

WIDEsystemのアイコンがグレー表示されます。

- WIDEsystemのアイコンをクリック、または右クリックでWIDEsystemを開きます。
- ネットワーク上に不明なスキャナが接続されていないか確認するために「スキャナの選択」右端にあるリフレッシュボタンをクリックします。
- 「スキャナが見つかりません」と表示されます。
- 「ネットワーク」のタブをクリックします。
- 「ネットワークスキャナ」の「追加」を押してネットワークスキャナのリストに追加します。



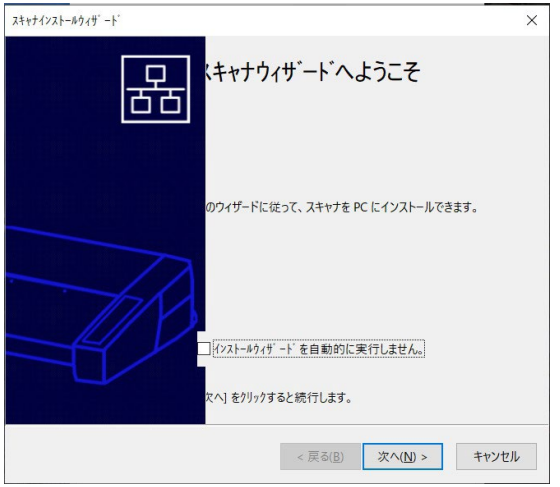
注記：「削除」ボタンを押すとグレー表示されたスキャナを削除します。また、ネットワークに変更があったり、スキャナが接続できなかったりなどの理由で同じスキャナを再度インストールするときに「削除」ボタンで一旦そのスキャナを削除することができます。

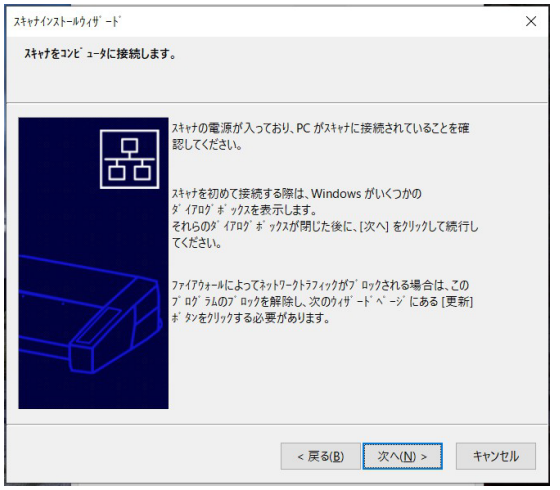
20

ファイアウォールを確認する

スキャナのインストールウィザードが起動します。

- 「次へ」をクリックします。
- Windows PCのファイアウォールの設定によってはWIDEsystemによるスキャナの検知がブロックされる可能性があります。その場合、ファイアウォールの設定についてIT管理者に確認してください。
- 「次へ」をクリックします。



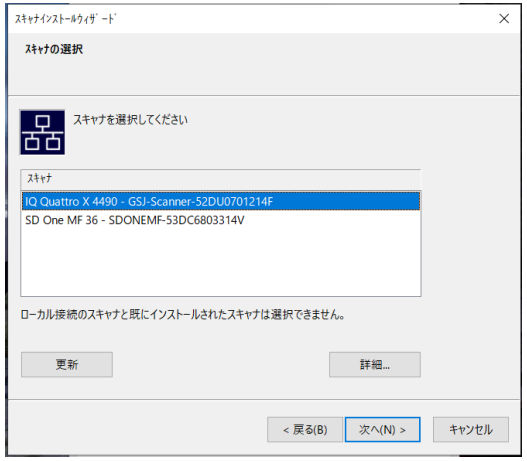


21

ネットワークスキャナを選択する

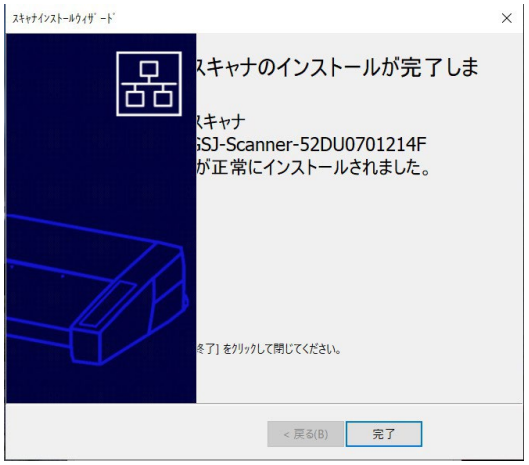
スキャナを選択する画面が表示されます。

- 利用可能なネットワークスキャナは青のハイライトで選択できます。
- スキャナを選択します。
- 「次へ」をクリックします。
- WIDEsystemが接続を確認し、スキャナのシリアルナンバーを表示します。
- 「完了」をクリックします。



注記：既に同じネットワークにインストールされているスキャナはグレー表示され、選択することができません。

注記：WIDEsystemが最新のバージョンであることを確認して下さい。最新のバージョンでない場合、スキャナが検知されない場合があります。



22

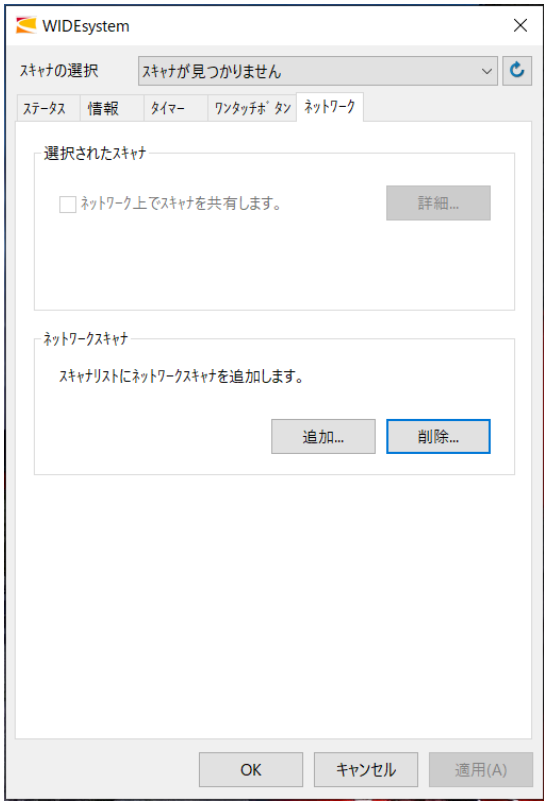
ネットワークスキャナを削除する

ネットワークに接続されていないスキャナや古いスキャナがスキャナリストに残っている場合 、WIDEsystemでこれらをリストから削除することができます。

- WIDEsystemのアイコンをクリック、または右クリックで開きます。
- 「ネットワーク」タブをクリックします。
- 「削除」ボタンをクリックします。
- 削除するネットワークスキャナを選択します。
- 「OK」をクリックして削除します。

注記：ネットワークスキャナを間違えて削除した場合、「ネットワーク」タブをクリックし、再度「追加」をクリックしてスキャナを追加します。

注記：ネットワークスキャナのリストには、使用するスキャナのみを登録してください。複数のスキャナを登録すると、登録済みのすべてのスキャナをネットワーク上で検索するため、認識に時間がかかる場合があります。



23

スキャナのネットワーク設定を変更する

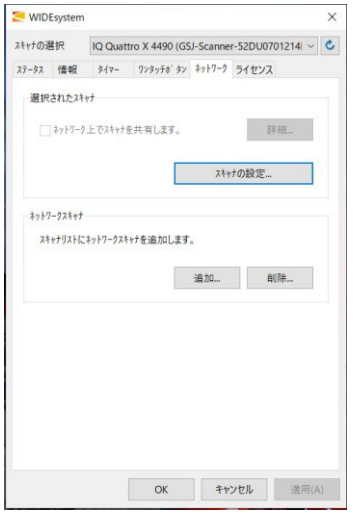
システムトレイにあるWIDEsystemのアイコンをクリック、または右クリックし、メニューから「WIDEsystemのリストア」を選択します。

WIDEsystemのアイコンが黄色であり、スキャナが接続されていることを確認します。

- 「ネットワーク」タブをクリックします。
- 「スキャナの設定」ボタンをクリックします。
- スキャナの設定画面では下記の設定を変更できます。

  –スキャナホスト名
  –ネットワークポートのナンバリング
  –IPアドレスの種類（デフォルトはDHCP）

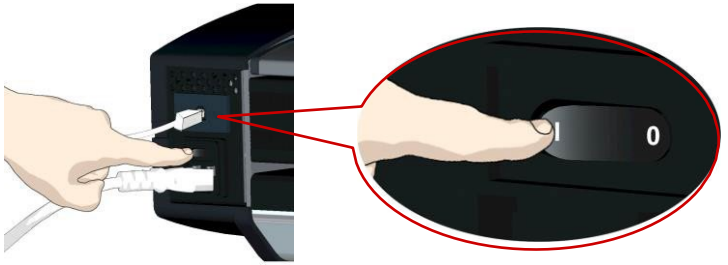
注記：上記設定について不明の場合はネットワーク管理者にお問い合わせください。





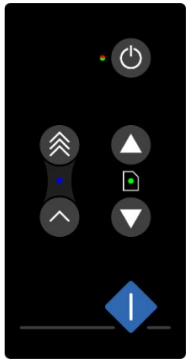
主電源スイッチ

主電源スイッチはスキャナの背面にあります。スイッチの左側(“I”と 書かれている側)を押すと、主電源がオンになります。スイッチの右側(“0”と書かれている側)を押すと、主電源がオフになります。



セルフテスト手順

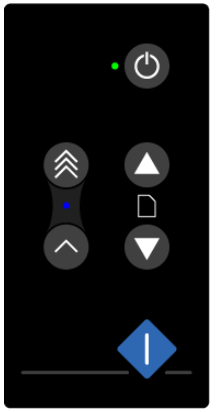
主電源をオンにすると、スキャナが短いセルフテストを実行します 。このテストは1分以内に完了します。



セルフテストの実行中はすべてのLEDが点灯します

スキャンの準備完了

電源LEDが緑に変わると、スキャン可能な状態です 。スキャナは**ウェイクアップモード**で起動します(次のセクションを参照)。



レディ状態 – ウェイクアップモード

主電源スイッチをオンのままにし、スキャナの 電源を**スリープモード**と**ウェイクアップモード**で制御することができます。

スリープモードとウェイクアップモード

主電源スイッチをオンにしたままで、スキャナの電源を**スリープモード**と**ウェイクアップモード**に設定できます。**スリープ**モードは省電力モードです。**スリープ**モードでは、スキャンを行うことはできません。**ウェイクアップ**モードは、完全な電源オンの状態であり、スキャナが動作可能となります。

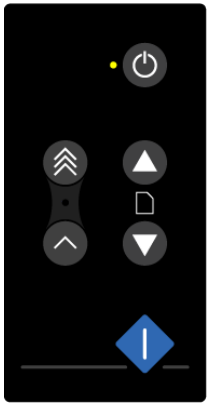
スキャナは、以下の場合に**ウェイクアップモード**から**スリープモード**に切り替わります。

- **自動**:事前に設定された待機時間が経過したとき(次の「スリープモードオプション」を参照)。
- **手動**:電源ボタンを3秒間押し続けたとき。



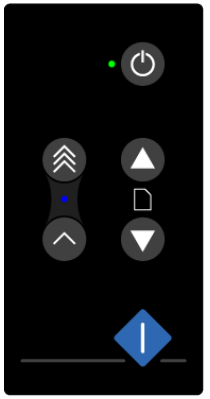
電源ボタンを押し続けるとスリープモードになる

スリープモード - 電源LEDが黄色に点灯



スキャナは、以下の場合に**スリープモード**から**ウェイクアップモード**に切り替わります。

- スキャナに原稿を給紙したとき。
- 電源ボタンを押したとき。



ウェイクアップモード - 電源LEDが緑色に点灯

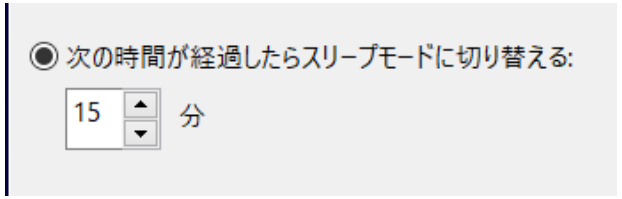
待機時間後の自動スリープ

出荷時には、スキャナは事前に設定されたデフォルトの待機時間(ス キャナが動作していない時間)が経過すると自動的にスリープモードに切り替わるように設定されています。この待機時間を通常のワークフローに合わせて増減できます。

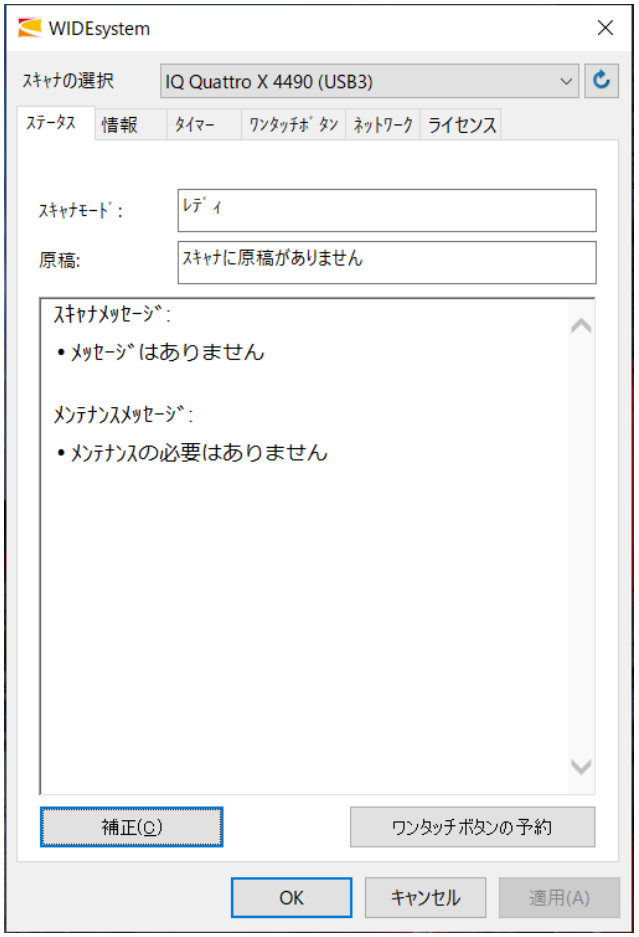
注記:インストールプロセス中に待機時間の変更を求められます。この設定を既に行っている場合は、リセットする場合を除き、この手順を省略できます。

スリープモードオプションの変更/設定

- WIDEsystemを開くには、システムトレイのWIDEsystemアイコン をクリックします。
- **[タイマー]** タブを選択します。
- **[スリープモードに移行するまでの時間設定]**の値を設定します。ここでは、どれだけの時間アイドル状態が続いた場合にスキャナが自動的にスリープモードに移行するかを分単位で指定します。
- **[適用]**をクリックして、設定をスキャナのメモリにダウンロードします。



注記:スキャナの主電源がオンであるときに、**[自動的にスリープモードになります]**オプションがオンに設定されている場合でも、スキャナを**手動**でウェイクアップモードおよびスリープモードに切り替えることができます。



- **起動**: パネルの電源ボタンを押すか、原稿をスキャナに挿入します。
- **スリープ**: 電源ボタンを3秒間押し続けます。

原稿をスキャナにセットする

- 原稿は、印刷面を上に向けて挿入します。原稿の中央を給紙台の中央の矢印に合わせます。
- 定型サイズのマークを利用して原稿をまっすぐ揃えます。



給紙方法には、自動給紙と手動給紙があります。給紙方法はスキャン/コピーアプリケーションで選択できます。

注記:お使いのスキャン/コピーソフトウェアおよびそのスキャナモデルとの互換性のレベルによっては、**自動給紙**および**手動給紙**オプションが使用できない場合もあります。



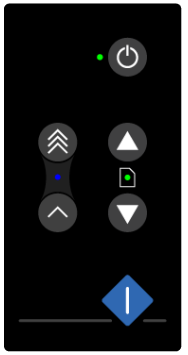
原稿の印刷面を上に向けて挿入する。原稿を両手で持ち、原稿の中央をスキャナの中央のマークに合わせる。

自動給紙

自動給紙では、原稿スロットに原稿を挿入すると同時に、スキャナ が給紙を開始します。 自動給紙は、様々なスキャン作業に使用できます。特に連続スキャン作業には大変便利な機能です。

スキャンアプリケーションの**[用紙処理]**オプションで**[自動給紙]**が 設定されていることを確認します。

原稿の中央を給紙台の中央の矢印に合わせます。



原稿が引き込まれる直前に、ペーパーレディLEDが緑色に点灯します。

原稿がローラーに当たり、ペーパーレディLEDが緑に点灯するまで、原稿を挿入口に差し込みます。

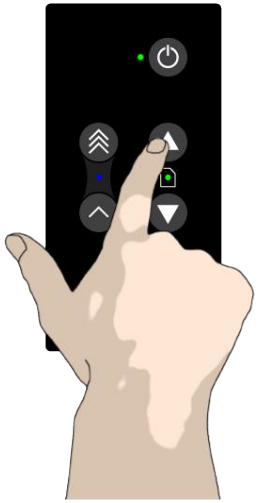
スキャナが自動的に原稿を引き込み、スキャン開始位置まで移動します。

原稿がすぐに引き込まれて位置を合わせにくい場合は、スキャンアプリケーションでディレータイム(給紙開始までの待ち時間)を調整してください。

手動給紙

- スキャンアプリケーションの**[用紙処理]**オプションで**[手動]**が 設定されていることを確認します。
- 原稿の中央を給紙台の中央の矢印に合わせます。
- 原稿がローラーに当たり、ペーパーレディLEDが緑に点灯するまで、原稿を挿入口に差し込みます。
- 片手で原稿を支え、もう一方の手でスキャナ操作パネルの原稿送りボタンを押し続けます。

ペーパーレディLEDが緑色に点灯したら、原稿送りボタンを押す



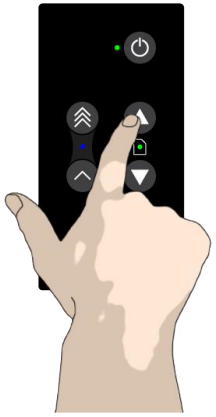
原稿がスキャン開始位置まで移動します。

スキャン後の原稿の取り出し

- 原稿戻しボタンを押すと、原稿が給紙台(正面側)に戻ります。



- 原稿をスキャナの背面から排出する場合は、原稿送りボタンを 押します。



低速給紙

[低速給紙]オプションは、スキャンアプリケーションで選択できます。低速給紙とは、給紙およびスキャンの速度を低下させることを意味します。このオプションは、**手動給紙**と**自動給紙**のどちらでも使用できます。

注記:お使いのスキャン/コピーのソフトウェアとそのスキャナモ デルとの互換性のレベルによっては、低速給紙のオプションが使用できない場合があります。

低速給紙が適している原稿

- 古い原稿、またはカールや折り目があるために紙詰まりを起こしやすい原稿。紙詰まりエラーへの対処方法については、「トラブルシューティング – 紙詰まりエラー」を参照してください。
- 駆動機構にゆっくりと通す必要のあるデリケートな原稿。

入力サイズの設定

入力サイズは、スキャンの範囲を定義するものです。入力サイズはアプリケーションの**[入力サイズ]**ダイアログで入力します。

注記:お使いのスキャン/コピーのソフトウェアとそのスキャナモ デルとの互換性のレベルによっては、**入力サイズ**のオプションが異なる場合があります。

入力サイズを検出および設定する3つの方法:

- **自動サイズ検出を使用する** – スキャナが自動的に原稿の端部を検出し、入力サイズを計算します。
- **定型サイズを設定する** – スキャナの給紙台に一般的な定型サイズが表示されています。この表示から原稿に適合する定型サイズを特定し、アプリケーションの**[入力サイズ]**ダイアログでそのサイズを選択します。
- **手動で サイズを設定する**(非定型サイズの場合) – 給紙台のインチ/cmルーラで原稿のサイズを測定します。測定した幅をアプリケーションの**[入力サイズ]**設定ダイアログの**[幅]**設定フィールドに入力します。**[長さ]**は、実際に測定して設定することもできれば、自動長さ検出を選択することも可能です。

スキャン

スキャン用のソフトウェアアプリケーション

このスキャナは、PCにインストールされたスキャンソフトウェア、コピーソフトウェア、またはイメージングソフトウェアを使用して操作します。

スキャナの機能を十分に利用するには、お使いのモデルに対応するスキャン／コピーソフトウェアが必要です。対応ソフトウェアとオプションについては、Contexまたは販売店にお問い合わせください。

バッチスキャン

同じスキャン設定を必要とする一連の原稿を給紙し、スキャンする場合は、複数の設定を1つにまとめて連続スキャンを実行できます。基本的 な手順は次のとおりです。

- バッチのスキャン設定（サイズ、タイプ、イメージ調整など)を行います。この設定は、バッチに含まれるすべての原稿に適用されます。
- スキャンソフトウェアを**バッチモード**に設定します。これにより 、スキャナは原稿が給紙されるとすぐにスキャンを開始するため、ユーザが手動でスキャンを開始する必要はありません。
- [自動給紙]を選択します(任意)。これにより、迅速で効果的な給紙が可能になります。

スキャンソフトウェアでのバッチスキャンの設定については、ソフト ウェアのオンラインヘルプを参照してください。

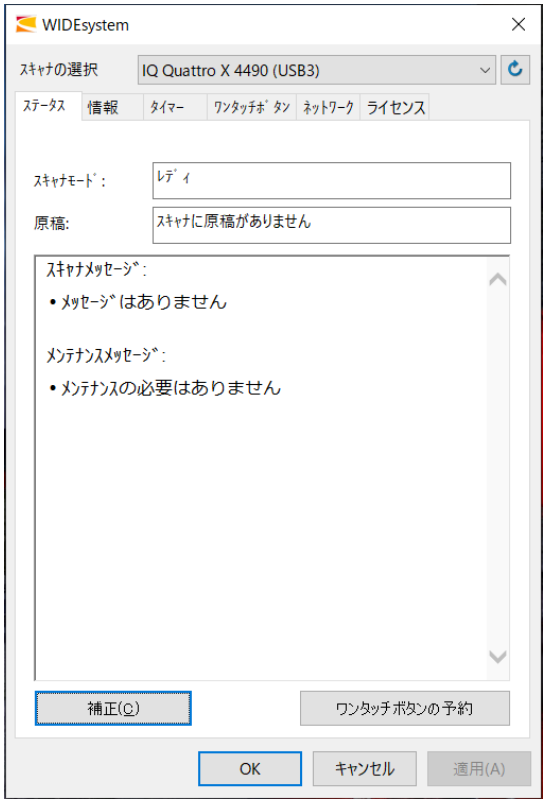


注記：お使いのスキャン/コピーソフトウェアおよびそのスキャナモデルとの互換性のレベルによっては、バッチスキャンオプションが異なる場合があります。

WIDEsystemによるスキャナのモニタリング

最初の設定手順で、スキャナドライバが含まれるWIDEsystemをインストールしました。WIDEsystemには、スキャナをモニタリングし、動作状態について報告するアプリケーションが含まれています。

システムトレイのWIDEsystemアイコンをクリックして、WIDEsystemの制御インターフェースを開きます。



WIDEsystemプログラムの制御インターフェース



- **スキャナのステータスを表示する**
  マウスをWIDEsystemのアイコンの上に置くとスキャナのステータスが表示されます。グレーのアイコンはスキャナがスリープモードか接続されていないことを示します。
- **エラーメッセージおよびログを表示する**
  ランタイムエラーは、発生すると直ちに画面に表示されます。**[ステータス]**タブと**[ログ]**タブを開いてエラーメッセージを確認することもできます。
- **スキャナデバイスの情報を表示する**
  ファームウェアおよびハードウェアのバージョン情報を確認 できます。**[情報]**タブを開きます。
- **新しいファームウェアをインストールする**
  コンピュータ上のフォルダに新しいファームウェアをダウンロードします。ファームウェアをインストールするには、スキャナアイコンを右クリックし、**[高度なオプション]** > **[スキャナファームウェアの更新]**を選択します。
- **システムのハードウェアバスのスキャンを開始する**
  これによってインターフェースを設定し直すことができます。ス キャナアイコンを右クリックし、**[高度なオプション]** > **[ハードウェアバスの再接続]**を選択します。

- **ネットワーク上の他の PC と共有できるようにスキャナを設定する**
  この設定を行うには、**[スキャンtoネット]**タブを開きます。インストール- LAN上でのスキャナの共有も参照してください。
- **スキャンソフトウェアをネットワーク上の共有スキャナにアクセスできるように設定する**
  この設定を行うには、**[スキャンtoネット]**タブを開きます。
- **WIDEsystemのオンラインヘルプを表示する**
  WIDEsystemのトラブルシューティング手順やスキャナでの使用方法を確認できます。WIDEsystemを開き、F1キーを押します。
- **スキャナを認証/アップグレードする**
  [ライセンス]タブを開きます。有効なライセンスキー、またはアップグレードキーを入力します。
- **スキャナ補正ウィザードを起動する**
  スキャナアイコンを右クリックし、**[補正]**を選択します。
- **One-Touchボタンに使用するアプリケーションを設定する**
  [One-Touch]タブで、対応アプリケーションの割り当てや変更、ボタンの無効化を設定します。ネットワーク接続で使用する場合は、必要に応じて[Reserve One-Touch]を選択します。詳細はWIDEsystemのヘルプを参照してください。

メンテナンス

スキャナのメンテナンスについて

スキャナのメンテナンスを行うことで、スキャナを最適な状態に保つことができます。メンテナンスには、次の3つの基本的な作業があります。

- **清掃**
  スキャナを汚れのない状態に保ちます。内部のスキャンエリアの入念な清掃方法について、次のセクションで説明します。スキャナを清掃する頻度は、スキャンの頻度とメディアのタイプによって異なります。主に新聞や古い青焼きの原稿をスキャンする場合は、カタログや最近の図面だけをスキャンする場合より頻繁に清掃する必要があります。良好なスキャン結果が得られなくなったときには、必ずスキャナの清掃を行ってください。スキャンエリアに粉塵があると、スキャン結果に縞が現れることがあります。詳細については、「スキャニングエリアの清掃」を参照してください。
- **補正**
  スキャナの補正は、出力に問題があり、スキャンエリアの清掃(上記を参照)を行っても問題が解決しない場合に行います。補正によって、本来のカラーおよびモノクロの読み取り精度を回復します。スキャナの補正は簡単に実行できます。補正を行うには、キャリブレーション シートを挿入し、スキャナの保守プログラムを起動します。以降の処理は自動的に実行されます。補正を行う前に、スキャナが汚れていないことを確認してください。詳細については、「補正」を参照してください。
- **ガラスプレートの交換**
  ガラスプレートの摩耗が原因でスキャン結果の画質が低下した場合は、ガラスプレートを交換する必要があります。ガラスプレートを清掃した後も画像に縞が現れる場合は、新しいガラスプレートが必要となる可能性があります。詳細については、「ガラスプレートの交換」を参照してください。

スキャンエリアの清掃

清掃の頻度は、主としてスキャナの使用頻度と原稿の状態によって決まります。原則として、1か月に最低1回は清掃を行い、高い精度が要求される重要なスキャン作業の直前にも必ず行ってください。**下記のスキャナの部品および箇所は、必ず清掃してください。**

- スキャナの給紙台
- ガラスプレート
- 上側の精密ローラー
- 下側の圧力ローラー
- 下側の搬送ゴムローラー



注記:次のページの「スキャナ内部の清掃」を参照し、これらの部品の位置を確認してください。

スキャナの内部の清掃

下の図は、カバーを開けたスキャナを上から見たところです。スキャナの清掃を行うときに把握しておくべき重要箇所（部品および場所）が示されています。このセクションではこれらの清掃方法を説明します。

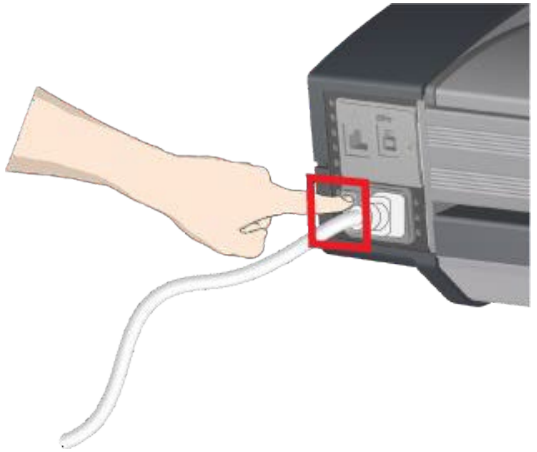


スキャナを清掃するには

1

主電源をオフにする

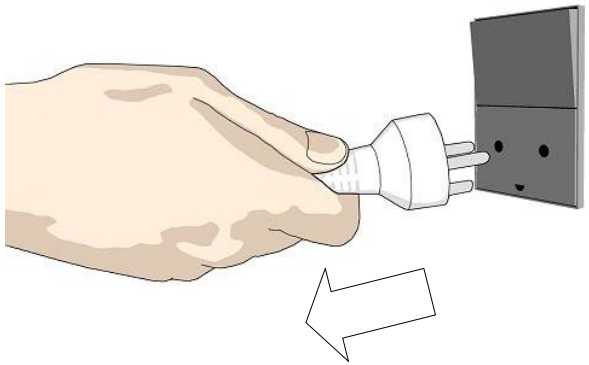
スキャナの背面にある主電源スイッチを押してオフにします（“0”の側を押す）。



2

スキャナの電源ケーブルを抜く

⚠ **警告：スキャナの清掃を行う前に、必ず電源ケーブルを抜いてください。これは、怪我やスキャナの破損を防ぐためです。**



3 スキャナの給紙台を清掃する

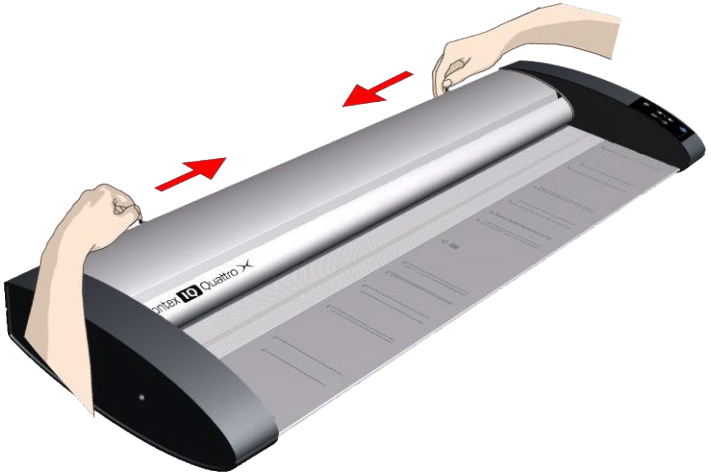
スキャニングエリアに原稿とともにほこりが入り込まないように、給紙台を清掃します。



4 カバーの解除ボタンをスライドしてカバーを開く

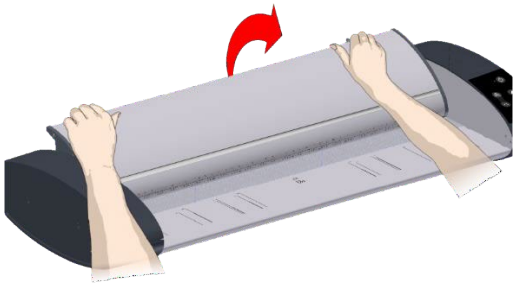
スキャナカバーの下にあるスキャンエリアを清掃するため、カバーを開ける必要があります。スキャナカバーの解除ボタンはカバーの後にありま す。

- スキャナの前に立ちます。
- カバーのロックが外れるまで、スキャナカバーを上から押しながら、スキャナの中央に向かって解除ボタンを指でスライドさせます。
- 別の指でカバーの端を押さえてください。



5 スキャナカバーを開く

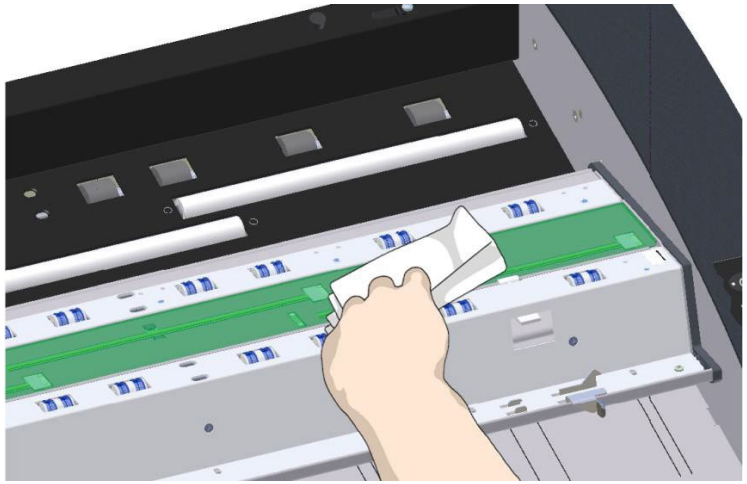
カバーの解除ボタンを押しながら、カバーの端を持って自分の方へ引き上げます。スキャナカバーを完全に開きます。



6 スキャナのガラスプレートを清掃する

ガラスプレートの清掃には、糸くずの出ない新しいきれいな布を2枚使用します。給紙台の清掃に使用した布は使用しないでください。

- ガラスクリーナーを使用する場合には、水性のものを使用します。
- ガラスプレートは軽く拭き、表面のゴミ等でガラスプレートに傷がつかないように気を付けてください。
- クリーナー使用後は、もう一枚の糸くずの出ない乾いたきれいな布でガラスをから拭きして、液剤をきれいに拭い、乾かします。
- ガラス以外の部分に液体が流れたり、付着しないようにしてください。



⚠ **警告**:ガラスプレートやスキャンエリア内にクリーナー液をスプレーなどで直接吹きかけないでください。

7 上側の精密ローラーを清掃する

上側の精密ローラーは、カバー内のガラスプレートの両側に並んでいます。これらのローラーは、スキャナ内を移動する原稿の向きをまっすぐに保つ働きをします。上側の精密ローラーは原稿の印刷面に直接触れるため、清掃時には特に注意を払う必要があります。

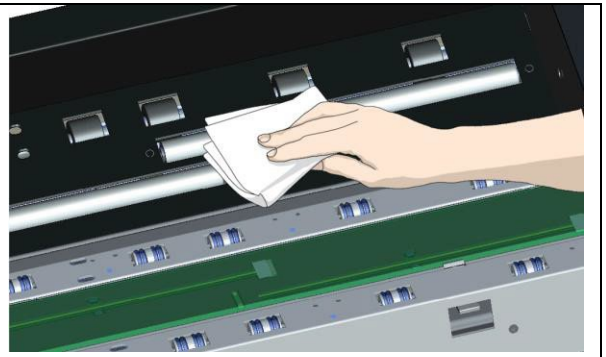


- 糸くずの出ない布を濡らし、固く絞って使用するか、水性のガラスクリーナーを使用しま す。
- ローラーの表面を軽く拭きます。
- 布を使用してローラーを回し、すべての面を拭きます。
- 糸くずの出ない別の乾いたきれいな布でローラーをから拭きして完全に乾かします。
- ローラーの周辺部を乾かします。

⚠ **警告**: **スキャンエリア内にスプレーなどでクリーナー液を直接かけないでください。**

8 プレッシャーローラーを清掃する

プレッシャーローラーとは、搬送ローラーの間にある長いローラーのこと で す。このローラーは、原稿をスキャナ内で平らに保つ働きをします。



- 糸くずの出ない布を濡らし、固く絞って使用するか、水性のガラスクリーナーを使用します。
- 白いローラーの表面を軽く拭きます。
- 布を使用してローラーを回し、すべての面を拭きます。
- 糸くずの出ない別の乾いたきれいな布でローラーをから拭きして完全に乾かします。
- ローラーの周辺部を乾かします。
- ⚠ **警告:ローラーやスキャンエリア内にスプレーなどでクリーナー液を直接かけないでください。**

9

搬送ローラーを清掃する

搬送ローラーは、白いプレッシャーローラーの両側に並んでいます。黒い 搬送ローラーは電動式で、スキャナ内で原稿を搬送する役割を果たします。

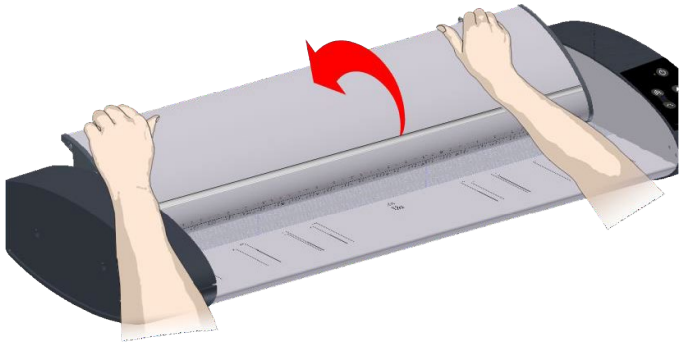
- 糸くずの出ない布を濡らし、固く絞って使用するか、水性のガラスクリーナーを使用します。
- 搬送ローラーの表面を軽く拭きます。
- 布を使用してローラーを回し、すべての面を拭きます。搬送ローラーは すべて共通の軸に連結されているため、1つを回すだけですべてのローラーが回ります。
- 糸くずの出ない別の乾いたきれいな布で搬送ローラーをから拭きして 完全に乾かします。
- ローラーの周辺部を乾かします。

警告：ローラーやスキャンエリア内にクリーナー液をスプレーなどで直接かけないでください。



10 カバーを閉じる

- 「カチッ」と音がしてラッチがかかるまで、スキャナカバーを完全に閉じま す。
- カバーを軽く上げるようにして、両側が完全に「閉まっている」状態になっていることを確認します。
- スキャナの電源ケーブルを接続し、主電源スイッチをオンにしてください。



11 スキャナの清掃完了

スキャナとスキャンエリアの清掃が完了しました。取り外したペーパーリターンガイドとマグネット式給紙ガイドを元の位置に戻してください。



補正

スキャナの補正は、きわめて簡単に実行できます。補正を実行するには、ドライバとともにインストールしたWIDEsystemプログラムを使用します。スキャンエリアを清掃した後で、**補正**ウィザードを起動するだけで自動的に補正が行われます。キャリブレーションシートを挿入するように指示されます。それ以外の補正処理は完全に自動化されています。

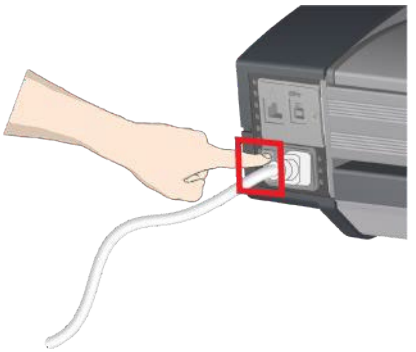
注記:清掃と補正は相互に結び付いています。スキャナを清掃すると改めて補正を行う必要が生じ、正確な補正を行うためにはスキャンエ リアが汚れていないことが必要です。 補正を行う前にスキャナが完全に清掃されていることを確認して下さい。

スキャナを補正するには

12

スキャナの電源を入れる

主電源がオフになっている場合は、スキャナの背面にある主電源スイッチを押してオンにします。スキャナが**スリープモード**になっている場合は、いずれかのボタンを押して**ウェイクアップモード**に戻してください。

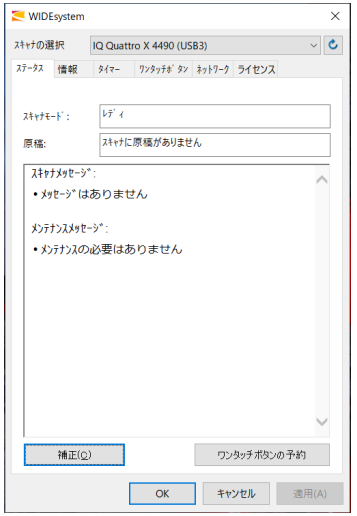




電源LEDが緑に変わると、スキャナは補正を実行できる状態です。

13 スキャナ補正ウィザードを起動する

- お使いのPCのシステムトレイにあるWIDEsystemアイコン をクリックし、WIDEsystemプログラムを開きます。
- 「補正」ボタンをクリックします。 補正(C)



14 補正の種類を選択する

「カメラ位置調整」または「完全補正」を選択します。

- カメラ位置調整では、画像のステッチが正しく行われるように水平キャプチャを調整します。
- 完全補正では、カメラ位置調整、白/黒補正、およびカラー補正が行われます。



15

キャリブレーションシートを挿入する

ウィザードの実行中に、スキャナに付属の *キャリブレーションシート*を挿入するように指示されます。**シートの印刷面を上にして挿入します**。シート中央の矢印とスキャナの中央の矢印を合わせ、シートをスキャナにセットします。



16

プログラムがスキャナを補正する

プログラムが段階的に動作し、センサーの解析と修正、白/黒値の補正、およびカラーの補正(カラースキャナの場合)を実行します。キャリブレーションシートが繰り返しスキャンされ、プログラムがデータを処理します。

補正処理(カメラ位置調整または完全補正)が完了するまで待ちま

す。補正が完了すると、それを示すメッセージが表示されます。

補正の完了後:

- スキャナキャリブレーションシートをスキャナから取り外します。
- スキャナキャリブレーションシートを保護カバーに戻します。
- キャリブレーションシートは保護カバーに入れ、直射日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。



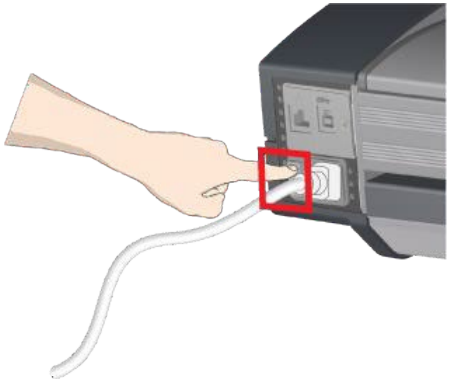
ガラスプレートの交換

ガラスプレートは、長期間の使用により摩耗したり、傷が付いたりすることがあります。読み取り精度や画質が低下した場合は、ガラスプレートを交換してください。

摩耗したガラスプレートを交換するには

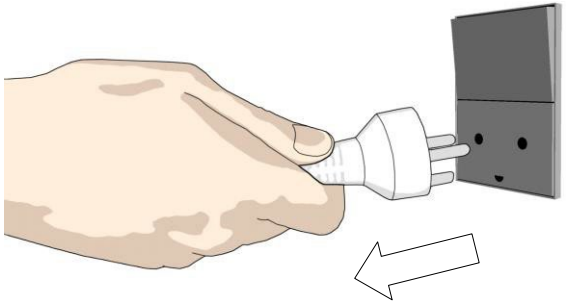
17 主電源をオフにする

スキャナの背面にある主電源スイッチを押してオフにします。



18 スキャナの電源ケーブルを抜く

⚠ **警告:これは、怪我やスキャナの破損を防ぐためです。**



19 カバーの解除ボタンを押してスキャナカバーを開く

ガラスプレートはスキャナカバーの下のスキャンエリアにあります。ガラスプレートを交換するためには、カバーを開ける必要があります。

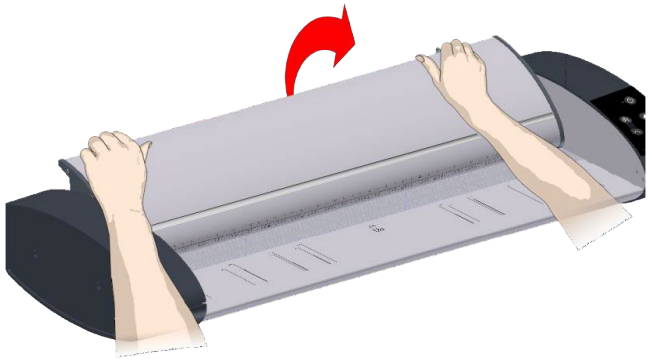
- スキャナカバーの解除ボタンはカバーの後部にあります。
- スキャナの前に立ちます。
- カバーのロックが外れるまで、スキャナカバーを上から押しながら、スキャナの中央に向かって解除ボタンを指でスライドさせます。
- 別の指でカバーの端を押さえてください。



20 カバーを引き上げる

- カバーの解除ボタンを押しながら、カバーの端を持って自分の方へ引き上げます。
- スキャナカバーを完全に開きます。

ガラスプレートを交換するときに使用する主要部品を把握し、位置を確認する必要があります。下記の「主要部品の概要」を参照してください。



ガラスプレートの交換 – 主要部品の概要

次の図は、カバーを開けたスキャナを上から見たところです。摩耗したガラスプレートを交換するときに把握しておく必要のある主要な部品と ボタンが示されています。

ガラスプレートは、2つの白い小さなプラスチック製ラッチで固定されています。各ラッチは、それぞれのラッチ解除ボタンを押し下げることによって、解除できます。ラッチ解除ボタンは、各ラッチの真下に位置する四角形の穴の中にあります。



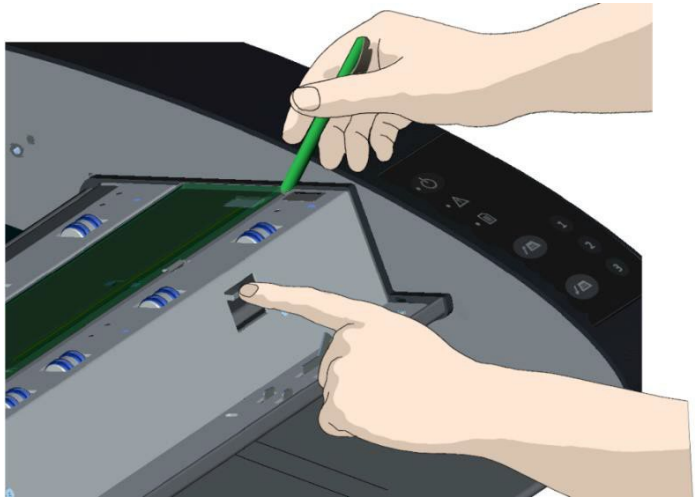
21 ガラスプレートの取り外し(右端のラッチを解除)

スキャナの前に立ちます。スキャナの右側から始めます。

- 最初の(右端)ラッチを外すには、小さなマイナスドライバーのような先端が薄く平らな工具が必要です。

  注記:2個目のラッチを外すときは、工具は不要です。

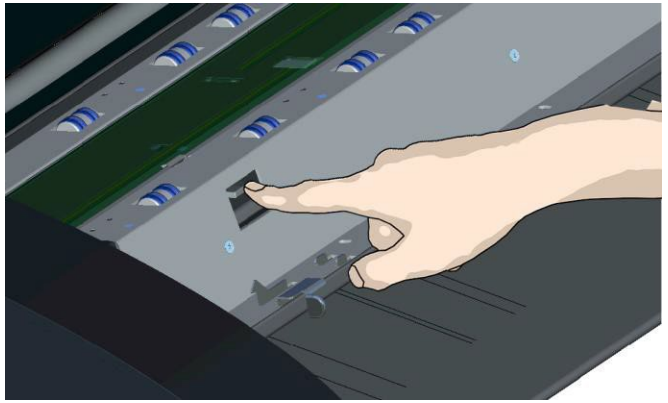
- スキャナの右側にある**矢印ラベル**を見つけます。
- 矢印ラベルが示すガラスプレートの端の下にツールを差し込みます。同時に、右端の四角形の穴の中にあるラッチ解除ボタンを押します。
- ボタンを押しながら、ツールを使ってガラスの端を慎重にめくり上げ、ガラスプレートを白いラッチから外します。
- ラッチ解除ボタンを放します。



22 ガラスプレートの取り外し(2個目のラッチの解除)

最初のラッチを外した後、2個目のラッチを外します。

- 左方向に進み、次の四角形の穴にあるラッチ解除ボタンを押します。
- ラッチのグリップが解除され、ガラスプレートがラッチから外れます。
- ラッチ解除ボタンを放します。
- 2個のラッチが解除されていることを確認します。

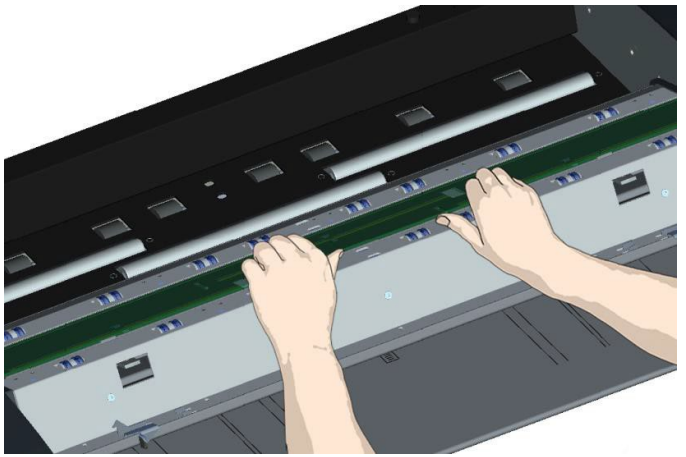


23 ガラスプレートの取り外し(取り出す手順)

ラッチを解除するとガラスプレートを取り外すことができます。

- スキャナの前面側に立ちます。
- 右の図のように、スキャナの中間部に手を当て、親指をガラスプレートの 下に入れます。
- ガラスプレートを後方に倒すように傾けて、両端を浮かせます。

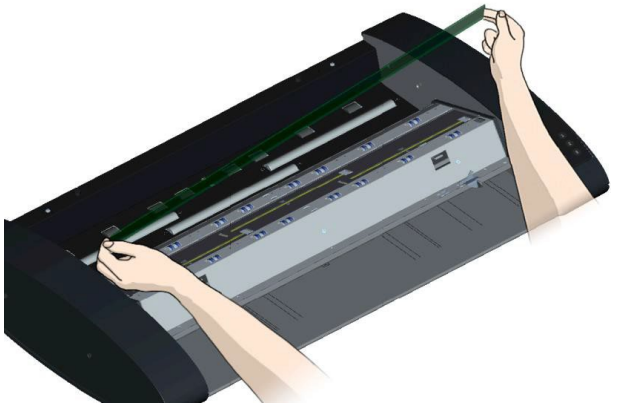
注記:ガラスの下に親指を入れることができない場合は、小さなマイナス ドライバーのような先端が薄く平らな工具を使って、親指がガラスの下に入れられるまでガラスを傾けます。



24 ガラスプレートの取り外し(スキャナから外す)

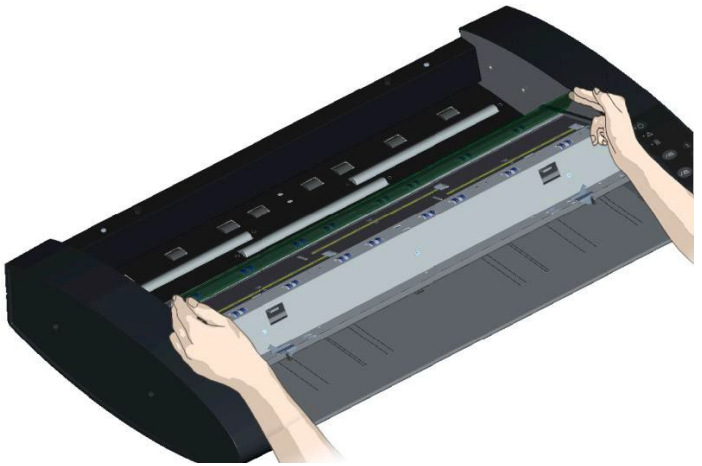
- ゆっくりと手をガラスプレートの両端まで動かします。
- ガラスプレートの両端を両手で軽く保持し、持ち上げてスキャナから取り外します。

警告:ガラスプレートは長くて薄いため、割れやすくなっています。
ガラスプレートを割らないように注意してください。



25

新しいガラスプレートをスキャナにはめ込む

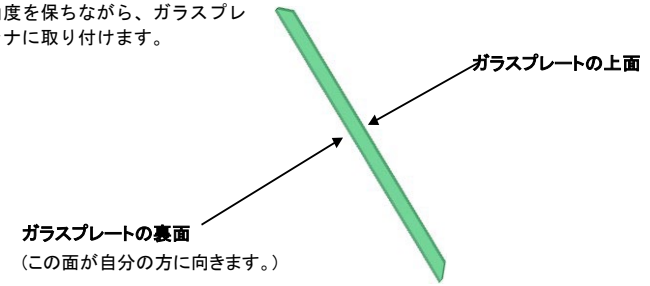


- 古いガラスプレートを取り外した時と同じ方法で、新しいガラスプレートを持ちます。ガラスプレートの表面に触れないように両端を持ってください。
- **ガラスプレートの裏面は通常のメンテナンスでは清掃しないので裏面には触らないよう特に注意してください。**
- ガラスプレートを持ってスキャナの前に立ちます。
- ガラスプレートは、正しい面を下にして持ってください。縁の面取りの向きで裏表を確認できます。下の側面図を参照してください。
- 下の側面図に示す裏面を自分の方に向けてガラスプレートを持ちます。
- 下図のように新しいガラスプレートを傾けてスキャナ内に下ろし、ガラスプレートの下側のエッジをスキャナの下側の溝に合わせます(次の手順を参照)。

警告:ガラスプレートは長くて薄いため、割れやすくなっています。ガラスプレートを割らないように注意してください。

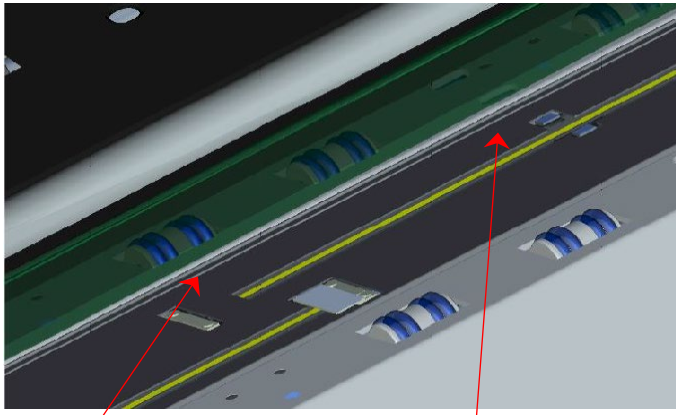
ガラスプレートの側面図:

図のような角度を保ちながら、ガラスプレートをスキャナに取り付けます。



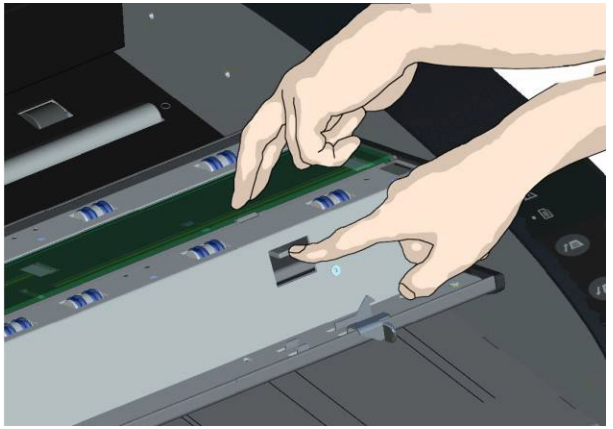
26 ガラスプレートを取り付ける

- ガラスプレートはスキャナカバーに付いている上下の溝の間に収まり ます。カバー内の、ガラスプレートの下側にある溝を見つけます。これは、スキャナの前面に立った場合、ガラスプレートの向こう側にある溝です。
- ガラスプレートの下側の端をガラスプレートの底にある溝に合わせます。
- ガラス プレートがスキャナ
- カバーの 2つの溝（下側と上側にある溝）にはまるように、上側のエッジ（自分側に向いている方）を慎重に傾けます。



27 新しいガラスプレートを固定する

- 右側から始めます。
- 最初の（右端）ラッチ解除ボタンを押します。
- ラッチ近くのガラスプレートの端をラッチの下に押し込みます。
- 順番に左方向のラッチにも同じ手順を繰り返します。
- 全てのラッチでガラスプレートの両端が固定されていることを確認します。



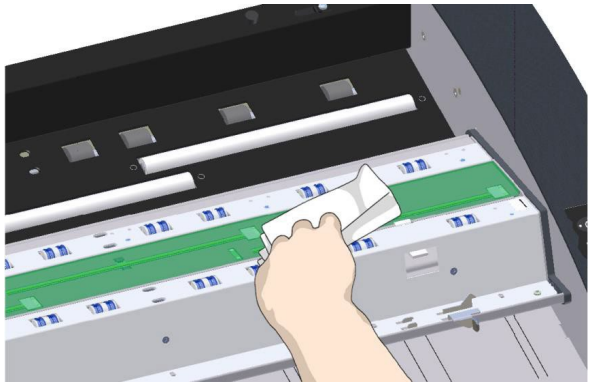
28

新しいガラスプレートを清掃する

新しいガラスプレートの清掃には、糸くずの出ない新しいきれいな布を2枚使用します。

- 糸くずの出ない布を濡らし、固く絞って使用するか、水性のガラスクリーナーを使用します。
- ガラスプレートを軽く拭きます。交換作業中にガラスプレートの表面に指紋が付いた可能性があるので拭き取ってください。
- クリーナー使用後は、もう一枚の糸くずの出ない乾いたきれいな布でガラスをから拭きして、液剤をきれいに拭い、乾かします。
- ・ガラス以外の部分に液体が流れたり、付着しないようにしてください。

警告:**ガラスプレートやスキャンエリア内にスプレーなどでクリーナー液を直接かけないでください。**



29

ガラスプレートの交換完了

- 「カチッ」と音がしてラッチがかかるまで、スキャナカバーを完全に閉 じます。カバーを軽く上げて完全に閉まっていることを確認します。
- スキャナの電源ケーブルを接続し、主電源スイッチをオンにしてください。



注記:ガラスプレートの交換後も良好なスキャン結果が得られない場合は、スキャナの補正を実行し、新しいガラスプレートに合わせてスキャナを調整してください。

新しいファームウェアのダウンロード

ファームウェアとは?

ファームウェアは、スキャナの動作を制御するソフトウェアです。スキャナ内部で動作し、内部の処理とPC上のアプリケーションを連携させます。

新しいファームウェアが必要となる場合とは?

スキャナには、出荷時点で最新のファームウェアが搭載されています。更新版の公開後は、メーカーのWebサイトからダウンロードするか、販売代理店から入手して更新できます。

ファームウェアをアップグレードするタイミング

- 新機能の追加や性能改善を含む更新版が公開された場合。
- 使用中のバージョンに不具合が見つかり、メーカーが修正版への更新を推奨している場合。

注記:各更新版の変更内容は、メーカーのWebサイトで確認してください。

スキャナのファームウェアのバージョンを確認する

- システムトレイのWIDEsystemアイコンをクリックしてWIDEsystem を起動します。
- **[情報]タブを選択し、使用中のファームウェアのバージョンを確認します。**
- **ファームウェアリリース:スキャナにインストールされているファームウェアのバージョン。**
- **ファームウェアダウンロード日時**:現在のファームウェアがダウンロードされた日付/時刻。

使用中のバージョンをメーカーのWebサイトに掲載された最新版と比較し、更新の必要性を確認してください。

新しいファームウェアをインストールする方法

ファームウェアを更新するには、対象機種の更新ファイル(.exe)をPCに保存し、実行します。

- メーカーのWebサイトから、対象機種の更新ファイルをダウンロードしてPCに保存します。
- 保存した.exeファイルをダブルクリックし、画面の指示に従って更新します。
- 更新には約1分かかります。更新中は、システムトレイのWIDEsystemスキャナアイコンが赤色に点滅します。

重要:ファームウェア更新中は電源を切らないでください

注記:ファームウェアを更新する際は、WIDEsystemも最新版に更新してください。

トラブルシューティング

このセクションでは、スキャナを使用中に問題が発生した場合の解決 法について説明します。実際の状況に合致する問題を探し、見つかった場合は、推奨されているトラブルシューティングの手順を実行してください。解決しなかった場合は修理の依頼をしてください。

システム上でのエラー報告

スキャナがエラーを検出すると、スキャナパネルの**エラーインジケータ**が点滅します。WIDEsystemがエラータイプをPC画面に表示します。

一般的なエラーの修正

- エラーの内容と原因がすぐにメッセージとして画面に表示される場合があります。表示された指示に従ってください。
- 表示されない場合は、WIDEsystemを開き(システムトレイ上のWIDEsystemアイコン をクリックする)、**[ステータス]**タブを選択してエラーの追加情報を確認します。
- この取扱説明書の「トラブルシューティング」セクションでエラーの説明と解決策を検索します。記載されている指示に従ってください。

技術サポート

技術的なサポートが必要となる場合もあります。以下の1つ以上の状況に該当する場合は、サービスプロバイダに連絡してください。

- PCの画面に表示される方法でエラーを解決できない。
- エラーとその解決方法がこの取扱説明書に記載されていない。
- エラーメッセージが画面に表示されない。

技術サポートに連絡する前に、以下の準備を行ってください。

1. スキャナ背面のラベルに印刷されている、スキャナのモデル番号とシリアル番号を書き留めてください。下のIQ Quattro X 44ラベルの例を参照してください。

2. ファームウェアのバージョンを書き留めてください。「スキャナで動作しているファームウェアのバージョンを確認する方法」セクションを参照してください。



注記:サービスプロバイダの連絡先については、メーカーのWeb サイトを参照してください。



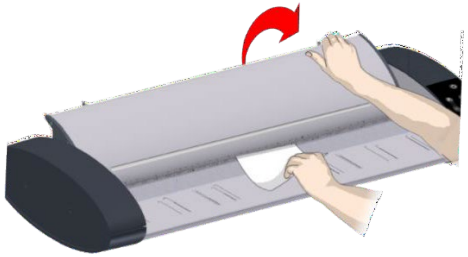
スキャナのインストールに関連する問題

問題	考えられる原因と解決方法
「不明なデバイスが見つかりました」というメッセージが表示される。	• インターフェースがPCで有効になっていないか、正しく設定されていません。インターフェースのインストール手順を確認して下さい。Windowsデバイスマネージャーにインターフェースとそのドライバが表示されているか確認して下さい。 • スキャナを接続する前にWIDEsystemドライバをインストールしていません。スキャナとPCの電源を切り、電源ケーブルとUSB 3.0ケーブルを外して、このガイドの「インストール」の手順1からインストール作業を再度行ってください。WIDEsystemをインストールする前にスキャナのインストールを続行した場合は、以下のトラブルシューティング手順を参照してください。 • インターフェース接続が緩んでいます。スキャナとPCの両方でインターフェースケーブルをいったん外し、しっかり接続し直してください。 • システムの再起動が必要です。スキャナとPCの電源を切り、電源ケーブルとUSB3.0ケーブルを外してください。次に、USB3.0ケーブルを接続し、PCの電源を入れます。Windowsが起動したら、スキャナの電源ケーブルを接続し、主電源スイッチをオンにします。
動作可能なドライバが見つからない - デバイスマネージャーでスキャナに黄色のエラーアイコンが表示されている。	WIDEsystemをインストールする前にケーブルを接続し、スキャナのインストールを実行しようとすると、「不明なデバイスが見つかりました」というメッセージが表示されます。このエラーを無視して次のダイアログへ進むと、スキャナは動作可能なドライバのない新しいデバイスとしてシステムに登録されます。この場合、Windowsデバイスマネージャーでは、スキャナに黄色のエラーアイコンが表示されます。スキャナを正しくインストールし直すためには、このスキャナエントリをデバイスマネージャーから削除する必要があります。 • デバイスマネージャーでスキャナエントリを削除します。 • PCの電源を切り、スキャナの電源を切って電源ケーブルを外し、スキャナとPCの接続ケーブルを外します。 • このガイドの「インストール」の手順1からインストールを実行します。必ずスキャナを接続する前にWIDEsystemをインストールしてください。

WIDEsystemがスキャナを検出しない。	• PCにスキャナのモデルより古いバージョンのWIDEsystemドライバがインストールされています。スキャナに付属のWIDEsystem TOOLS USB3.0サムドライブからWIDEsystemドライバをインストールしてください。WIDEsystem TOOLS USBがない場合は、メーカーのWebサイトから最新バージョンをダウンロードするか、販売店に連絡して適切なバージョンのWIDEsystemを入手してください。 • スキャナを接続する前にWIDEsystemドライバをインストールしていません。スキャナとPCの電源を切り、接続ケーブルを外して、インストールを手順1から再度行ってください。 • インターフェース接続が緩んでいます。スキャナとPCの両方でインターフェースケーブルをいったん外し、しっかり接続し直してください。 • システムの再起動が必要です。スキャナとPCの電源を切り、接続ケーブルを外してください。次に、USB3.0接続ケーブルを接続し、PCの電源を入れます。Windowsが起動したら、スキャナの電源をオンにしてください。

スキャナの操作に関連する問題

問題	考えられる原因と解決方法
エラーインジケータLEDが点滅する。 	エラーが発生しました。 直ちにエラーメッセージが画面に表示される場合があります。表示されない場合は、WIDEsystemを開き(システムトレイのスキャナアイコン)、[ステータス]タブを選択してエラーの追加情報を確認します。以下の手順のうち1つを実行してください。 • 画面に表示される情報には、エラーの解決方法が含まれている場合もあります。画面に表示される指示に従ってください。 • この取扱説明書にエラーの説明があるか確認します。記載されている場合、指示に従ってください。 • 技術的なサポートが必要となる場合もあります。以下の1つ以上の状況に該当する場合は、サービスプロバイダに連絡してください。 a. … PCの画面に表示される方法でエラーを解決できない。 b. … エラーとその解決方法がこのユーザーズガイドに記載されていない。 c. … エラーメッセージが画面に表示されない。
技術サポートへの連絡が必要。	問題への最善の解決策を迅速に得るためには、サービスプロバイダに技術サポートを依頼する前に、できるだけ多くの情報を用意する必要があります。サービスプロバイダの連絡先については、メーカーのWebサイトを参照してください。 手順については、こちらを参照してください。

エラーメッセージ：紙詰まり	原稿がまだ駆動機構内にあるときにスキャナがスキャンを停止し、ペーパーレディLEDが消えた(点滅後)場合は、紙詰まりエラーが発生したことを意味します。画面には**紙詰まりエラー**メッセージが表示されます。解決するには、次の手順を実行します。 • スキャナから原稿を取り出します。原稿戻しキーまたは原稿送りキーを押し続けます。 • 原稿が排出されない場合やキーを押しても反応がない場合は、スキャナのカバーを開けて原稿を取り出す必要があります。 カバーのロックが外れるまでカバー解除ボタンを同時にスキャナの中央に向かってスライドさせます。別の指でカバーの端を押さえてください。  *カバーを開く - カバー解除ボタンを押す* • 一方の手でカバーを引き上げて開き、もう一方の手で原稿を引き出してスキャンエリアから完全に取り除きます。  *カバーを開けたままにして原稿を取り出す* • カバーを閉じます。 • スキャナがレディ状態に戻ったら、原稿を再度挿入し、スキャンを実行します。 再び紙詰まりエラーが発生した場合は、上記の手順を繰り返します。再度紙詰まりが発生する場合は原稿を挿入する前にソフトウェアで[**低速給紙**]オプションを選択してください。

スキャナのメンテナンス **エラーメッセージ：** **ステッチ調整に失敗しました**	このメッセージは**スキャナのメンテナンスプログラム**の実行中に表示されることがあります。 • 最も多い原因は、ガラスプレートの汚れや染みです。スキャンエリアを清掃し、スキャナを再起動してから、このガイドの「メンテナンス」の記載に従って補正を実施します。 • スキャンエリアを清掃しても問題が解決しない場合は、光学経路内に異物が入り込んだことが原因である可能性があります。スキャンエリアから紙片などの異物を取り除いてください。ごく小さな異物であってもスキャナの調整機能を阻害します。 • 問題が解決しない場合は、技術サービスプロバイダにサポートを依頼してください。
One-Touchボタンが動作しない	WIDEsystemの[One-Touch]タブを開き、割り当てたアプリケーションがPCにインストールされ、スキャナに対応していることを確認してください。ネットワーク接続の場合は[Reserve One-Touch]の設定も確認します。詳細はWIDEsystemのヘルプを参照してください。
ファームウェアのアップグレードが失敗してからスキャナが動作(反応)しなくなった。	停電によって、実行中のファームウェアのアップグレードプロセスが中断した可能性があります。ファームウェアのアップグレードプロセスが中断された場合、スキャナは正常に動作しなくなります。ファームウェアの一部しかロードされない可能性があり、その場合はスキャナがアクセス不能になります。スキャナを**セーフモード**で再起動し、再度ファームウェアを適用する必要があります。 • スキャナを再起動します。破損したファームウェアを検出した場合、スキャナは**セーフモード**で起動します。 • **セーフモード**であることを確認します。システムトレイのWIDEsystemスキャナアイコンをクリックして、WIDEsystemを開きます。**[スキャナ:]**フィールドに「スキャナはセーフモードになっています」と表示されていることを確認して下さい。 • ファームウェアのインストールの手順を実行してください。 **注記**：**セーフモード**は、破損または中断したファームウェアのインストールを修復する目的でのみ使用してください。スキャナが**セーフモード**であるときにスキャンを行わないでください。

スキャン結果に関連する問題

問題	考えられる原因と解決方法
イメージの一部がスキャンされない	• スキャンアプリケーションでサイズ設定が[自動認識]であるか、原稿全体のサイズと一致していることを確認します。 • スキャンアプリケーションで、原稿を正しく挿入していることを確認します。必ず原稿の中央をスキャナの中央の矢印に合わせてください。
ステッチの問題：イメージセクションのずれ（センサーとセンサーの間のズレ、ピクセルの重なり）	• 原稿を取り出してから、スキャナのメンテナンスプログラムで補正を実行してください。補正では、ステッチエラーの修正も行われます。 • 補正を行っても問題が解決しない場合は、センサーの再調整が必要である可能性があります。技術サービスプロバイダにサポートを依頼してください。
スキャンしたイメージに原稿の図面にはない1つ以上の細い垂直線（給紙方向）が現れる。	原因として多いのはガラスプレートの汚れです。ガラスプレートにほこりが付いていると、それが1か所であっても、場所が悪ければスキャン結果の全体に縞が発生することがあります。解決するには、次の手順を実行します。 • この取扱説明書に記載された手順に従ってガラスプレートとローラーを清掃します。 • ガラスプレートに付着するほこりのほとんどは、挿入される原稿によって持ち込まれます。原稿を糸くずの出ない乾いた布で拭いてほこりを取り除いてからスキャナに挿入してください。 • 清掃を行っても問題が解決しない場合は、スキャナのメンテナンスプログラムを使って、スキャナを補正します。スキャナはほこりがあった位置を記憶している可能性があるため、ほこりを除去した後で再補正を行う必要があります。 • 清掃と補正を行っても問題が解決しない場合は、ガラスプレートに傷がないかどうか確認してください。ガラスプレートに傷が付いている場合は交換が必要です。サービスプロバイダから新しいガラスプレートを入手してください。この取扱説明書に記載された手順に従ってガラスプレートを交換してください。

付録

安全に関する重要な注意事項

これらの注意事項を全て読み、後で使用できるように保存してください。スキャナに付いている全ての警告および指示に従ってください。

A. スキャナを不安定な場所、台車、またはテーブル上に置かないでください。本体が落下した場合、深刻な被害が生じる場合があります。

B. 清掃を行うときには、スプレーなどで液体クリーナーをスキャナの部品に 直接付けないでください。液体クリーナーを布に付け、湿らせた布で部品を拭いてください。

C. 交換可能な部品を**清掃**/交換**する前に、**必ずスキャナの電源をオフにし、電源ケーブルを抜いてください。

D. スキャナは、マーキングラベルに示された電源タイプで動作する必要があります。使用されている電源タイプが不明な場合は、販売代理店または地域の電力会社にご相談ください。

E. このスキャナは、IT、TT、およびTN配電システムで使用するためのもので、3線アースプラグが付いています。このプラグは、アース端子付き電源コンセントにのみ差し込むことができます。これは設置時の安全のための仕様です。プラグをコンセントに差し込めない場合は、電気技師に連絡して、コンセントを交換してください。アースプラグの目的を無視した使い方をしないでください。

F. 電源ケーブルの上には何も置かないでください。コードが踏まれるような 場所にはスキャナを置かないでください。

G. スキャナに延長コードを使用する場合は、延長コードに接続する製品の 合計定格アンペアが延長コードの定格アンペアを超えないようにしてください。壁コンセントに差し込まれる全ての製品の合計定格が 15 アンペアを超えないようにしてください。

H. 背面または底面のキャビネットにあるスロットや開口部は、通気のために設けられています。これは、操作の信頼性を確保し、製品を過熱から保護するためのものです。これらの開口部をふさいだり覆ったりしないでください。ベッド、ソファ、じゅうたんなどの表面が柔らかいものの上に設置して、この開口部をふさいだり、覆ったりしないでください。この製品をラジエータや温風送風口の近くまたは上に設置しないでください。充分な通気ができない限り、スキャナをビルトイン式で設置しないでください。

I. スキャナ筐体のスロットから内部にどのような物体も押し込まないでください。危険な電圧ポイントに接触したり、部品をショートさせ、火災や感電の危険を生じる可能性があります。スキャナに液体をこぼさないようにご注意ください。

J. スキャナを自分で修理しようとしないでください。開閉に道具が必要なカ バーを開けたり、または外すと、危険な高電圧のかかっている場所などのリスクにさらされます。そのような箇所の修理は指定サービスマンにお任せください。

K. 次の状況の場合は、スキャナのコードを壁コンセントから抜き、指定サ¥ビスマンにお任せください。

- 電源コードまたはプラグが損傷または摩滅している。
- スキャナに液体がこぼれた。
- スキャナが雨や水にさらされた。
- 操作指示に従ってもスキャナが正常に動作しない場合は、この取扱説明書にある指示で説明されたコントロールのみを調整してください。この取扱説明書に記載された以外のコントロールを不適切に調整すると、恒久的な損傷をきたす結果になり、この製品を正常な動作状態に復旧するためには、最善でも、資格を持つ技術者による大規模な作業が必要になります。
- スキャナが落下した、またはキャビネットが損傷した。
- スキャナの性能に、整備の必要性を示す著しい変化が見られる。

規則

FCC Regulations

USA

NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference in which case the user will be required to correct the interference at his/her own expense.

Caution: Pursuant to Part 15.21 of the FCC Rules, any changes or modifications not expressly approved by the manufacturer may cause harmful interference and void the user's authority to operate the equipment.

CE Regulations

EU

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A product according to EN55022.

VCCI 規則

日本

この装置は、VCCI:2008の合意(CISPR 22)に定められたクラスA製品に関する 規制要件に基づいて、所定の試験が実施され、これに適合するものと認定されています。

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI－A

Toxic or Hazardous Substances or Elements

有毒有害物质或元素名称及含量

單元 Unit	Restricted substances and its chemical symbols 限用物質及其化學符號					
	鉛Lead (Pb)	Mercury (Hg)	Cadmium (Cd)	六價鉻Hexavalent Chromium (Cr^{+6})	多溴聯苯 PolyBrominated Biphenyls (PBB)	多溴二苯醚 PolyBrominated Diphenyl Ethers (PBDE)
CIS module CIS 模组	X	○	○	○	○	○

備考 1. 超出 0.1 wt %" 及 "超出 0.01 wt %" 係指限用物質之百分比含量超出百分比含量 基準值。

Note 1: "Exceeding 0.1 wt %" and "exceeding 0.01 wt %" indicate that the percentage content of the restricted substance exceeds the reference percentage value of presence condition.

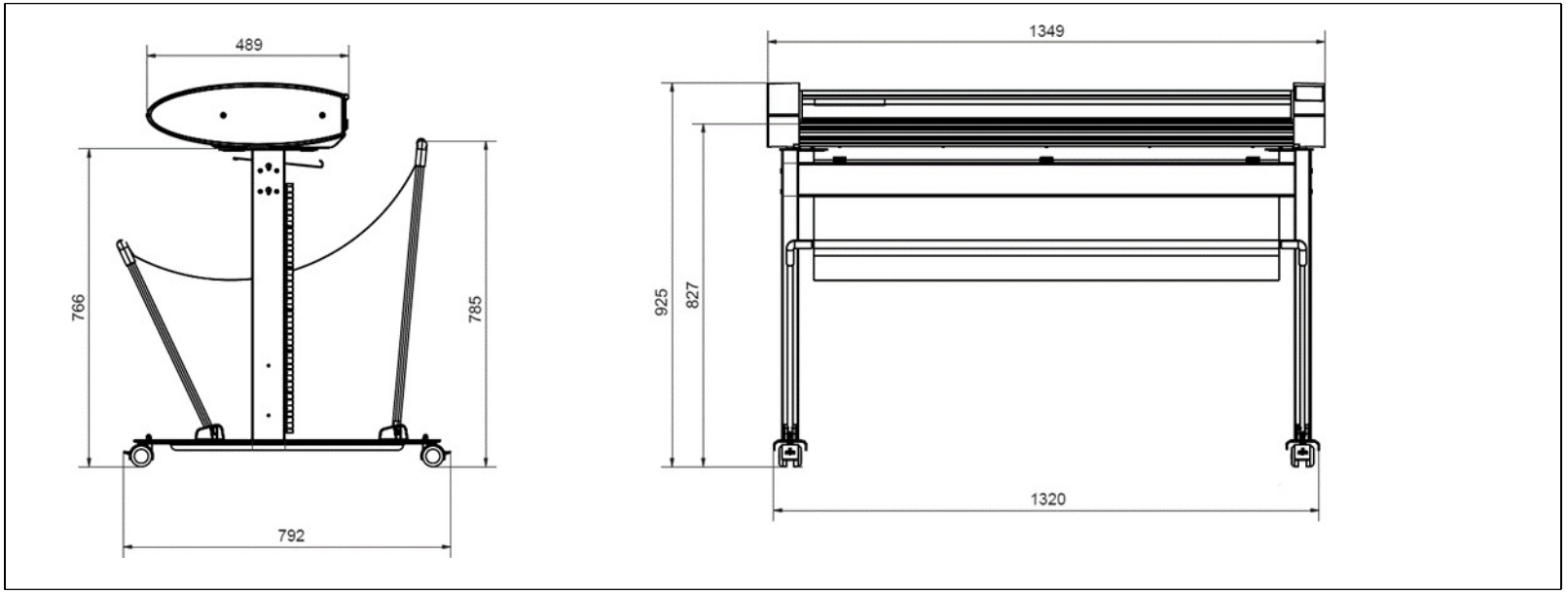
備考 2. "○" 係指該項限用物質之百分比含量未超出百分比含量基準值。

Note 2: "○" indicates that the percentage content of the restricted substance does not exceed the percentage of reference value of presence.

備考 3. "－" 係指該項限用物質為排除項目。

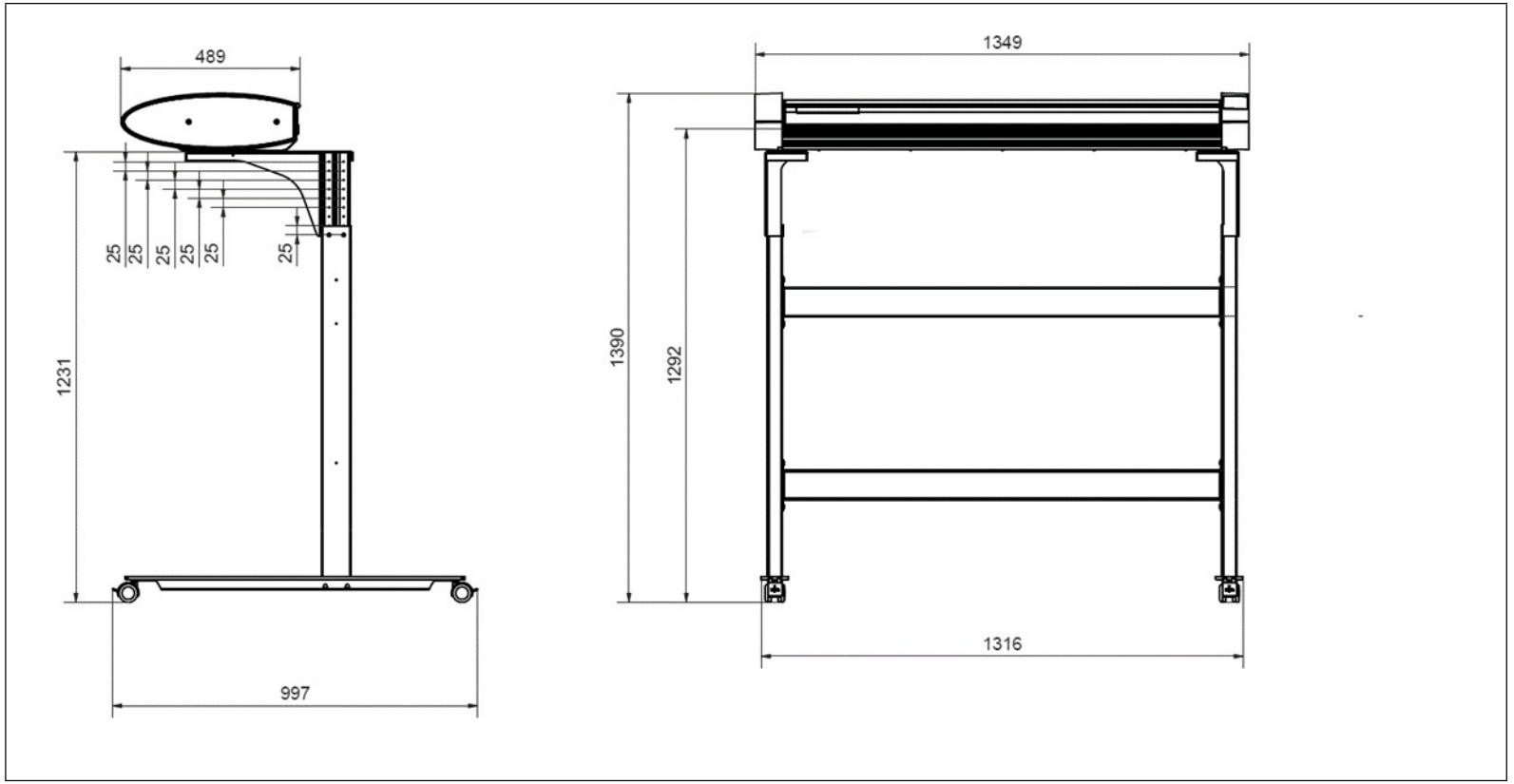
Note 3: The "－" indicates that the restricted substance corresponds to the exemption.

下段用調節式スタンド



注記：図は、高さを最も低い827mmに設定したスタンドを示しています(寸法はmm単位)。

上段用調節式スタンド



注記：図は、高さを最も高い1292mmに設定したスタンドを示しています(寸法はmm単位)。